

# 事務事業及び予算の執行実績

(令和6年度分「一部、令和7年度分も含む」)

静岡県立伊豆の国特別支援学校

## 目 次

□□□□□□□□	事務事業の概要（本校）	．．．．． 1
	（伊豆下田分校）	．．．．． 15
	（伊豆松崎分校）	．．．．． 25
□□□□□□□□	事務執行の根拠法令調	．．．．． 37
□□□□□□□□	学校施設の概要	．．．．． 38
□□□□□□□□	在籍生徒調	．．．．． 42
□□□□□□□□	入学志願者及び入学者数調	．．．．． 45
□□□□□□□□	卒業生の動向調	．．．．． 47
□□□□□□□□	生徒の状況	．．．．． 48
□□□□□□□□	特別支援学校における生産物売払調	．．．．． 52
□□□□□□□□	保管現金有高調	．．．．． 54
□□□□□□□□	預金調	．．．．． 55
□□□□□□□□	郵券等受払調	．．．．． 56
□□□□□□□□	材料品受払調	．．．．． 57
□□□□□□□□	委託料等歳出予算執行状況節別集計表	．．．．． 58
□□□□□□□□	委託料等歳出予算執行状況節別集計表	．．．．． 59
□□□□□□□□	委託料に関する調	．．．．． 60
□□□□□□□□	負担金支出調	．．．．． 64
□□□□□□□□	建築工事調	．．．．． 66
□□□□□□□□	公有財産調	．．．．． 67
□□□□□□□□	借地借家等調	．．．．． 68
□□□□□□□□	事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	．．．．． 69
□□□□□□□□	行政財産貸付・使用許可調	．．．．． 70
□□□□□□□□	主要備品調	．．．．． 71
□□□□□□□□	職員調	．．．．． 72
□□□□□□□□	職員の年齢調	．．．．． 78
□□□□□□□□	健康管理	．．．．． 79

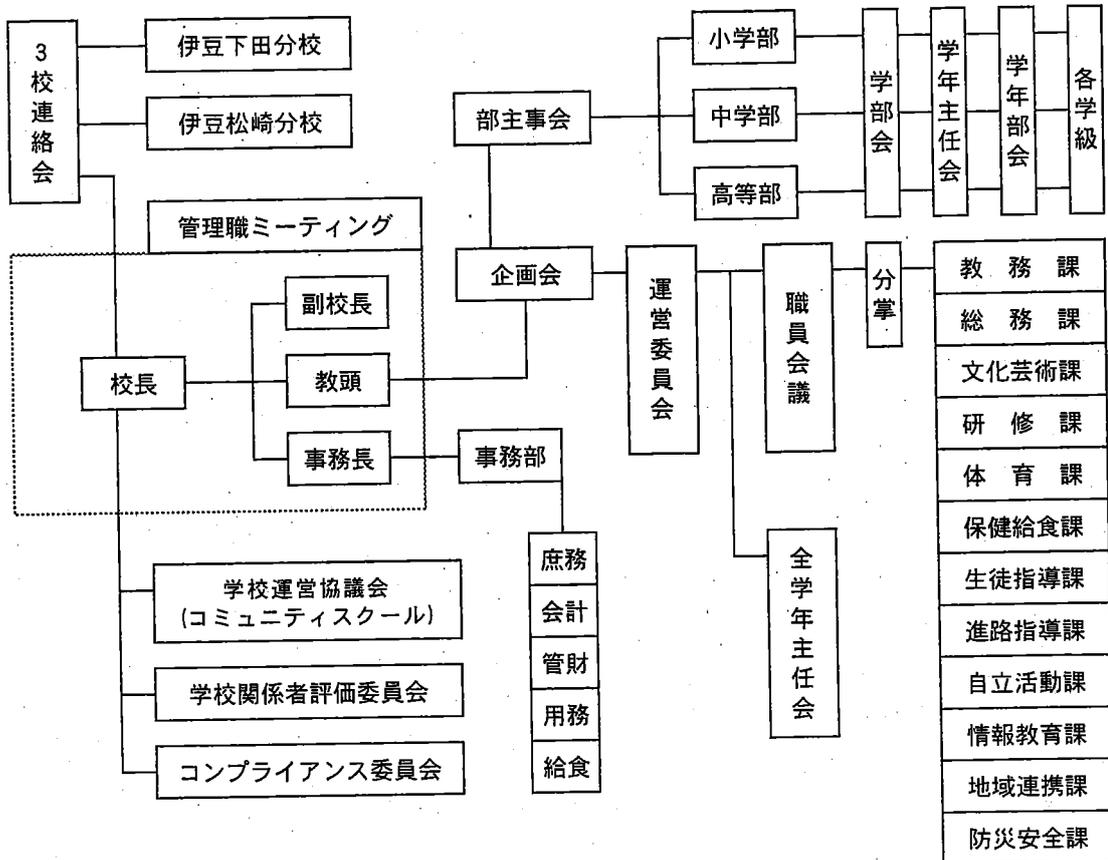
事務事業の概要（本校）

1 概要

(1) 学校の沿革

- 平成 29. 9. 5 三島田方地区特別支援学校（仮称）の敷地を旧東部特別支援学校跡地にすることを決定し教育委員会定例会に報告
- 令和 元. 10. 11 「三島田方地区特別支援学校（仮称）」建設工事着手
- 2. 3. 18 県議会2月定例会において県立学校設置条例改正案が議決校名が「静岡県立伊豆の国特別支援学校」に決定
- 2. 4. 1 沼津特別支援学校内に「伊豆の国特別支援学校設置準備委員会」を設置
- 3. 2. 22 校舎建設工事完了
- 3. 4. 1 静岡県立伊豆の国特別支援学校開校

(2) 組織図



各種委員会		
・ 学校評価委員会	・ 入学者選考委員会	・ 医療的ケア委員会
・ 教育課程検討委員会	・ 校内就学支援委員会	・ アレルギー疾患対応委員会
・ 教育課程編成委員会	・ 校内支援委員会	・ 食に関するケース委員会
・ 研修推進委員会	・ 防災危機管理委員会	・ 職員安全衛生委員会
・ 人権教育(いじめ体策)委員会	・ 情報管理委員会	・ 職員交通安全委員会
・ 生徒指導委員会	・ スクールバス委員会	・ 施設開放委員会
・ 交流教育推進委員会	・ 学校保健委員会	

©カリキュラムマネジメント委員会

2 目指す学校像

(1) 教育目標

「良さが輝き 未来をひらく」

一人一人が確かな学びを積み重ね、仲間や地域とつながりながら、自分の良さを生きたる力へと輝かせ、夢や希望をもち、自ら未来をひらく（「開く」「拓く」「啓く」）人を目指す

(2) 目標具現化の柱

- ア【安全・安心】 命と健康を守り、人権を尊重し、一人一人を大切にする学校
- イ【専門性】 確かな力を積み上げ、一人一人の良さを引き出す学校
- ウ【連携】 保護者や地域と連携し、児童生徒の社会参加を目指す学校
- エ【チーム学校】 教職員が主体的に学校づくりに参画する学校

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等（重点目標はゴシック体で記載）

【令和6年度】

【安全・安心】 命と健康を守り、人権を尊重し、一人一人を大切にする学校

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	○成果と●課題
ア	生命の尊さや人とのつながりを大切にし、一人一人の良さを受け入れ、互いを思いやる心の醸成	各学部の経営計画に基づき、児童生徒の命が守られていると答える教職員や保護者 (AB100%)	児童生徒の命を第一に考え、一人一人の気持ち、願いを受け止める支援の充実	A	○児童生徒が、自分ごととして、参加できる訓練内容を実施することができた。危機管理マニュアルの見直しにより、命を守ることを意識するようになった。
		信頼できる教職員に向けて、自身の行動を振り返ることができた教職員 (AB100%)	人権感覚を高め、風通しのよい雰囲気づくりといじめや教職員の不祥事を見逃さない体制づくり	A	○「さん」づけの徹底により、児童生徒の人権を大切に思うことができた。 ○交通違反が2件あったので、ゼロとなるように、コンプライアンス通信等で注意喚起する。
ア	命のつながりを実感する食育の推進	給食室と連携し、安全な給食提供ができたと答える教職員及び保護者 (AB100%)	季節感があり、健康で丈夫な体をつくる食材の選定と給食献立の策定、及び個に応じた給食の提供	A	○地産地消の献立やその紹介が工夫されていた。
		食と各教科等の関連を意識した指導をした教職員 (AB90%)	地域の産物や生産者、食材の特長と栄養等6つの食育の視点を意識した食育の実践	A	○食育の授業に取り組み、食への会話や意識が高められた。地域の農場へ行き、掘ったじゃがいもを調理した。
ア	児童生徒の命を守る安全教育の充実	緊急時の対応や防犯防災訓練をとおして、児童生徒の安全を守る行動を身につけた教職員 (AB85%)	実効性の高い訓練方法を探るとともに、緊急時において、主体的に行動できる実践力の育成 ヒヤリハットの迅速な報告と共有及び今後に生かす取組	A	●学校を卒業した後も想定して、生涯における身の守り方（防犯、防災）を支援する必要性を感じている。 ●ヒヤリハットについて、学部で周知し、今後につなげることができた。常に「なぜ」「これから」といったことを大切にしていける必要がある。

【専門性】 確かな力を積み上げ、一人一人の良さを引き出す学校

	取組目標	成果目標	達成上状況	評価	○成果と●課題
イ	主体的・協働的・深い学びによって、資質・能力を育成する授業実践	児童生徒の学びを見取り、適切な目標設定と評価ができた教員 (AB80%)	一人1授業研による学び合う校内研修の工夫と、授業力の向上	B	○国語・算数数学での研修を深く実施し、全体的に教科に対する視点や捉え方の質が高まっている。
		ラーニングマップの活用による授業づくりを行い、実践後に授業改善を進めた教員 (AB80%)	個別の指導計画に基づく障害の特性を踏まえた国語・算数数学の授業実践及び授業改善	A	○個に合わせた進度で学習することで、児童生徒が理解できて成果を自身が感じることができた。
イ	特別支援教育の専門性の向上	障害の特性に応じた支援や学習指導要領に基づく研修ができた教員 (AB90%)	児童生徒の実態や障害特性に応じた指導のための校内研修の充実	A	○日常生活の指導で、週の重点ポイントを決めて学年で取り組むことができた。
		PCやタブレットの活用により、授業準備の効率化や学習の定着に効果を得た教員 (AB85%)	PCやタブレット活用による主体的学びの推進	A	○iPadを活用した授業を行い、児童生徒が自分で調べたり、写真を撮ったりして、深い学びとなった。 ●情報機器の整備を可能な限り進める。

【連携】 保護者や地域と連携し、児童生徒の社会参加を目指す学校

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	○成果と●課題
ウ	キャリア教育の視点で小中学部、高等部のつながりと、児童生徒の願いや夢を大切にしたい進路指導の充実	小中高の系統性を意識して指導できた教員 (AB80%)	なぎのはプランを基に、児童生徒の実態と将来を見据えた指導の充実	A	●学部間交流を積極的に行う。 ●なぎのはプランの読み込みは大切であるが、実際に見ること、児童生徒と接する機会を設定する。
		児童生徒に応じた適切な情報提供や、進路指導ができたと答える教員及び保護者 (AB80%)	児童生徒の願いや夢を叶えるための地域社会の幅広い情報や、進路情報の提供の充実	A	○将来を見据えた「今」を考えて指導することができた。 ●情報をまとめた資料を作成して、共有できるようにする。
ウ	保護者や地域住民との協働を推進し、地域と共に歩む学校づくり	各学部において、適切な交流を計画し、地域に貢献できたと感じる教職員 (AB80%)	児童生徒及び教職員が地域で活躍し、地域に貢献できる方法を探り、積極的に推進できる体制づくり	A	●地域での活動が増えているので、引き続き地域を意識した授業を考えていきたい。 ●ボランティア活動を活用して、地域と関わる機会を設けていきたい。
		地域を活用した学習活動をとおして、児童生徒が意欲的に学ん	児童生徒や教職員と地域住民が、積極的に関わる協働の学びの推進	A	○生産者と直接交流をもち、農作物や土に触れた活動は、とても成果があったので、今後

	だと感じる教職員及び保護者 (AB80%)		も協働の学びの場を授業の中で、多く設定するようにする。
--	-----------------------	--	-----------------------------

【チーム学校】 教職員が主体的に学校づくりに参画する学校

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	○成果と●課題
エ	特別支援学校のセンター的機能の充実及び関係機関との連携の強化	センター的機能による成果の整理及び検証 (毎学期)	支援要請に対し、迅速且つ適切な相談と継続した支援の実施	A	○コーディネーターが、支援体制に切れ、迅速に対応することができた。 ●顔と顔がつながる状況にする。
		学校内外の情報共有と、支援会議やケース会議等での案件の整理及び成果の検証 (毎学期)	外部関係諸機関との連携と、迅速な支援体制づくり	A	○地域連携課を中心に、外部機関との連携と丁寧につなぐ支援体制づくりができてきている。 ●教員一人一人が、外部機関のことを理解する体制づくりが必要である。
エ	教職員一人一人が責任をもった業務遂行と、やりがいを感じる働き方の推進	キャリア自己目標に基づき、役割を担った教職員 (AB80%)	教職員一人一人の業務に責任をもった意識向上	A	○行事の実施の精選や実施方法など教職員の一人一人が業務について責任をもったことで、学校経営参画への意識向上につながった。
		計画的な業務遂行のために努力できた教職員 (AB70%)	学部及び分掌、業務の精選と、教職員の一人一人のタイムマネジメント等、事の内容の一人一人の働き方の意識改革	A	○PCの掲示板を活用し、会議の時間を短縮することができた。業務内容の精選を引き続き進める。

【令和7年度】

【安全・安心】 命と健康を守り、人権を尊重し、一人一人を大切にする学校

	取組目標	達成方法 (取組手段)	成果目標	担当部署
ア	生命の尊さや人とのつながりを大切にし、一人一人の良さを受け入れ、互いを思いやる心の醸成	・児童生徒の命を第一に考え、一人一人の気持ちや願いを受け止める支援の充実	・各学部の経営計画に基づき、児童生徒の命が守られていると答える教職員や保護者 (AB100%)	各学部 生徒指導課
		・人権感覚を高め、声を掛けやすい雰囲気と、いじめや教職員の不祥事を見逃さない体制づくり	・信頼できる教職員に向けて、自身の行動を振り返ることができた教職員 (AB100%)	生徒指導課 各学部
ア	命のつながりを実感する食育の推進	・季節感があり、健康で丈夫な体をつくる食材の選定と給食献立の策定、及び個に応じた給食の提供	・給食室と連携し、安全な給食提供ができたと答える教職員及び保護者 (AB100%)	各学部 保健給食課

ア		・地域の産物や生産者、食材の特長と栄養等6つの食育の視点を意識した食育の実践	・食と各教科等の関連を意識した指導ができた教職員 (AB90%)	各学部 保健給食課
	児童生徒の命を守る安全教育の充実	・実効性の高い訓練方法を探るとともに、緊急時において、主体的に行動できる実践力の育成 ・ヒヤリハットの迅速な報告と共有及び今後にかさず取組	・緊急時の対応や防犯防災訓練をとおして、自分の身の守り方を学んだ児童生徒、教職員 (AB80%)	防災安全課 保健給食課 生徒指導課 各学部 事務部

【専門性】 確かな力を積み上げ、一人一人の良さを引き出す学校

	取組目標	達成方法 (取組手段)	成果目標	担当部署
イ	主体的・協働的・深い学びによって、資質能力を育成する授業実践	・授業研究会による学び合う校内研修の工夫と、授業力の向上	・児童生徒の学びを見取り、適切な目標設定と評価ができた教員 (AB85%)	研修課 各学部
		・目指す児童生徒像を踏まえた、各教科等を合わせた指導の授業実践及び授業改善	・児童生徒の興味関心や解決したい課題についてチームで検討し、学習者主体の授業づくりを進めた教員	研修課 各学部
イ	特別支援教育の専門性の向上	・児童生徒の実態や障害特性に応じた指導のための校内研修の充実	・障害の特性に応じた支援や学習指導要領に基づく研修ができた教員 (AB90%)	自立活動課 研修課 各学部
		・PCやタブレット活用による主体的学びとICT教育の推進	・PCやタブレット等の活用により、授業準備の効率化や学習の定着に効果を得た教員 (AB85%)	情報教育課 研修課 各学部

【連携】 保護者や地域と連携し、児童生徒の社会参加を目指す学校

	取組目標	達成方法 (取組手段)	成果目標	担当部署
ウ	キャリア教育の視点で小中学部、高等部のつながりと、児童生徒の願いや夢を大切にしたい進路指導の充実	・なぎのはプランを基に、児童生徒の実態と将来を見据えた指導の充実	・小中高の系統性を意識して指導できた教員 (AB80%)	各学部 進路指導課 教務課
		・児童生徒の願いや夢を叶えるための地域社会の幅広い情報や、進路情報の提供の充実	・児童生徒に応じた適切な情報提供や、進路指導ができたと答える教員及び保護者 (AB80%)	各学部 進路指導課
ウ	地域住民との協働を推進し、地域と共に歩む学校づくり	・児童生徒及び教職員が地域に貢献し、地域で活躍できる場や環境の設定	・各学部において、適切な交流を計画し、地域に貢献できたと感じる教職員 (AB80%)	各学部 地域連携課
		・地域の自然や歴史、産物等に触れ、地域の良さを感じる地域活動の充実	・地域を活用した学習活動をとおして、児童生徒が意欲的に学んだと感じる教職員及び保護者 (AB80%)	各学部 文化芸術課

【チーム学校】 教職員が主体的に学校づくりに参画する学校

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
エ	特別支援学校のセンター的機能の充実及び関係機関との連携の強化	・支援要請に対し、迅速且つ適切な相談と継続した支援の実施	・センター的機能による成果の整理及び検証（毎学期）	地域連携課
		・外部関係諸機関との連携と、迅速で丁寧につなぐ支援体制づくり	・学校内外の情報共有と、支援会議やケース会議等での案件の整理及び成果の検証（毎学期）	各学部 地域連携課 進路指導課 生徒指導課
エ	教職員一人一人が責任をもった業務遂行と、やりがいを感じる働き方の推進	・教職員一人一人が、業務に責任をもち、学部や学校経営への参画の意識の醸成	・キャリアステージと自己評価シートに基づき、自身の役割を理解して分掌や学年の運営に携わった教職員（AB80%）	各学部 各分掌 事務部
		・学部及び分掌、事務部の業務内容の精選と、教職員一人一人のタイムマネジメント等働き方の意識改革	・計画的な業務遂行のために努力し、働き方を改善できた教職員（AB70%）	各学部 各分掌 事務部

4 監査対象期間における特色ある取組

【令和6年度】

取組概要	成果と課題
伊豆の国版カリキュラム・マネジメントシステムの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の目標や内容を網羅したシラバスを使用して授業を行い、実態に即した目標と内容を検討する。</li> <li>・児童生徒の12年間の系統性に基づいたカリキュラム・マネジメントの在り方を検討する。</li> <li>・自分が行っている国語・算数／数学の授業で作成した単元デザインシート、授業デザインシートを見直す学習会を行う。講師を招き、講演とグループワークを行う中で授業づくりに必要な知識を学び、カリキュラム・マネジメントに生かす。</li> </ul>
専門性向上研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回、外部講師を招き、事例児童生徒の指導・支援について、自立活動の視点から具体的に評価・改善の指導・助言を受ける。</li> <li>・夏の研修で、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所研究員から、「自立活動と各教科等の関連を図った児童や流れ図の作成方法について」の講義を受け、グループ演習で指導助言を得る。</li> </ul>
K・Y（危険予知）ミーティング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月の始業前に教職員で児童生徒所在不明時の1次搜索の仕方を確認した。校内敷地、学校周辺の危険箇所を確認するほか、どのような行動をすればよいのかについても確認した。学校施設については消火器、さす又、AEDの場所を確認し、同時に安全点検も行い全体で共有した。</li> <li>・児童生徒の搜索訓練は年間を通して3回行い、所在不明の状況で1次～3次の段階に沿った搜索訓練を実施。</li> <li>・学校周辺の交通量の多い道路、電車の踏切付近など、経路や事故にありそうな場所などの確認を行い、対策を検討する。</li> <li>・南海トラフ地震等発生時各班体制訓練で、各班の業務内容の確認や備品の管理、作動確認をする。8月に実施予定だったが延期となったため、1月に実施した。</li> <li>・伊豆の国市危機管理課と地域住民に参加を呼び掛け、共に行動を考える機会とする。</li> </ul>

<p>連携事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊豆総合高校</li> <li>・伊豆ゲートウェイ函南</li> <li>・(株)JM</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊豆総合高校との連携事業を引続き継続する中で、どのような連携内容がより継続性のあるものに繋がるかを検討する。</li> <li>・伊豆ゲートウェイ函南との連携委託作業として、野菜の袋詰め作業を行う。学校近隣にある商業施設との連携事業であり、今後も学校の情報発信や生徒の社会参加の機会として計画。</li> <li>・学校運営協議会委員の一人から、高等部の作業製品販売の機会をいただき、企業が企画した川の駅伊豆城山でのイベントに販売で参加。</li> </ul>
<p>地域交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域への理解啓発のため、児童生徒の日頃の学習活動や作品、地域に学習の様子をホームページや直接の関わりをとおして情報発信する。</li> <li>・高等部は、伊豆の国市民文化祭に学校の紹介パネルと作業製品を展示。修善寺大掃除に学期1回参加。伊豆医療福祉センターのイベントで高等部作業製品を販売。伊豆市役所のイベントで作業製品を展示など、年度内に地域への参加を広げ、販売を通して地域の人と関わりを持つ。</li> <li>・一部の生徒にはなるが、伊豆総合高等学校の文化祭に出掛け、高等学校の生徒が作り上げる学校行事を知り、見聞を広める。</li> <li>・高等部の作業学習で昇降口の清掃を学習し、力がついてきたところで東部特別支援学校を年4回、韭山高等学校を年2回清掃し、社会貢献する。</li> </ul>
<p>学校間交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・韭山地区5校（小学校2校、中学校1校、特別支援学校2校）による連絡協議会を引き続き行い、より深まりのある交流を考える。</li> <li>・伊豆の国市内、韭山地区に特別支援学校が2校存在するメリットを十分に活かし、特別支援教育への理解と活用へと繋げる。</li> <li>・本校職員が小学校と中学校に出前授業を実施し、特別支援学校や特別支援教育について、より正しく理解する機会を設ける。</li> <li>・本校から小学校、中学校に出向き、体育や特別活動等の内容で共同学習を行う。</li> </ul>

【令和7年度】

取組概要	成果と課題
<p>伊豆の国版カリキュラム・マネジメントシステムの構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム・マネジメントについて、年度初めに伝達研修を実施し、全職員間で共通理解を図った。</li> <li>・児童生徒の12年間の系統性に基づいたカリキュラム・マネジメントの在り方を検討するため、学部毎に教科部会を行い、成果や課題について整理した。</li> <li>・学校経営における重点目標の達成把握の観点から、学期末に授業の実践内容や系統性、改善点について整理した。</li> </ul>
<p>専門性向上研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の指導・支援において、外部講師より実態把握や目標、指導、評価の方法について全体講義を受け、実践的、指導力の向上を図った。</li> <li>・児童生徒個々の指導場面を取り上げ、一人一人の課題に応じた指導、支援について具体的に評価、改善を進めた。</li> <li>・自立活動の6区分に基づいて的確に児童生徒の実態を把握し、具体的な指導内容や指導場面を設定できるように資料を作成し、自己研修に活用した。</li> <li>・学習指導要領の目標や内容を網羅したシラバスを使用した授業づくりについての研修を行い、実態に即した目標や内容の検討を行った。</li> <li>・単元デザインシート、授業デザインシートの活用についての研修を行い、各教科等を合わせた指導についての授業づくりの視点や各教科とのつながりについての学びを深めた。</li> </ul>

<p>KY(危険予知) ミーティング</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月の始業前に、新任者を対象に児童生徒所在不明時の1次搜索の仕方を確認した。校内敷地、学校周辺の危険箇所を確認するほか、過去の事例を交えながら、どのような行動をすればよいのかについても確認した。学校施設については消火器、さす又、AED、防犯カメラの場所を確認し、同時に安全点検も行い全体で共有した。防犯カメラは、基本的な操作方法の確認も実施した。</li> <li>・児童生徒の搜索訓練は年間を通して2回行い、所在不明の状況で1次から3次の段階に沿った搜索訓練を実施。</li> <li>・これまでの訓練で集めた情報を基に、学校周辺の危険個所の確認を行い、対策を検討する。</li> <li>・南海トラフ地震等発生時各班体制訓練で、各班の業務内容の確認や備品の管理、作動確認をした。伊豆の国市危機管理課と、本校が避難所となる地区の区長及び防災担当にも参加を呼びかけ、2地区の区長と防災担当が参加し、施設の確認と、非常用トイレやマンホールトイレの確認を行った。訓練終了後は、地域と学校の防災の連携や課題等について情報交換を行った。</li> </ul>
<p>連携事業 ・伊豆総合高校 ・伊豆ゲートウェイ函南 ・(株)JM</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学部では伊豆の国観光協会と連携し、地域の祭りに飾る風車を生徒、保護者、教員で願いごとを書いて作成した。</li> <li>・伊豆ゲートウェイ函南との連携委託作業として、市効果の作業製品を納品している。学校近隣にある商業施設との連携事業であり、今後も学校の情報発信や生徒の社会参加の機会として計画。</li> </ul>
<p>地域交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学部では「江川邸竹灯り」イベントに向け、地域の方に教わりながら竹灯籠づくりを行い、イベントにも展示した。</li> <li>・中学部の作業学習では、地域の方と一緒に文化センターの花壇の花植えを行ったり、製品を公共施設等に贈呈したりした。</li> <li>・地域への理解啓発のため、児童生徒の日頃の学習活動や作品、地域に学習の様子をホームページや直接の関わりをとおして情報発信する。</li> <li>・高等部は、伊豆の国市民文化祭に学校の紹介パネルと作業製品を展示。修善寺大掃除に学期1回参加。伊豆医療福祉センターのイベントで高等部作業製品を販売。伊豆市役所のイベントで作業製品を展示など、年度内に地域への参加を広げ、販売を通して地域の人と関わりを持つ。</li> <li>・一部の生徒にはなるが、伊豆総合高等学校の文化祭に出掛け、高等学校の生徒が作り上げる学校行事を知り、見聞を広める。</li> <li>・高等部の作業学習で昇降口の清掃を学習し、力がついてきたところで東部特別支援学校を年4回、葦山高等学校を年3回清掃し、社会貢献する。</li> </ul>
<p>学校間交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葦山地区5校(小学校2校、中学校1校、特別支援学校2校)による連絡協議会を引き続き行い、より深まりのある交流を考える。</li> <li>・伊豆の国市内、葦山地区に特別支援学校が2校存在するメリットを十分に活かし、特別支援教育への理解と活用へと繋げる。</li> <li>・本校職員が小学校と中学校に出前授業を実施し、特別支援学校や特別支援教育について、より正しく理解する機会を設ける。</li> <li>・本校から小学校、中学校に出向き、体育や特別活動等の内容で共同学習を行う。・中学校の生徒が特別支援学校を訪問し、グループでの自己紹介や校内ウォークラリーを行う中で交流を深めると共に障害理解、学校理解を行った。</li> <li>・東部特別支援学校の生徒(両校1年生)と学校間を行き来し、レクリエーション活動を行う中で、交流を深めた。</li> </ul>

5 教職員について

(1) 令和6年度異動状況

(本校)

(単位:人)

職名 区分	本務職員											会計年度任用職員							合計			
	教育職員						行政職員					本務計	教諭(任)	教諭(臨)	医療的ケア看護職員	実習支援指導員	非常勤嘱託員	非常勤労務職員		小計		
	校長	副校長	教頭	教諭	養護教諭	栄養教諭	小計	事務長	主査	主任	主事										小計	
転出者			1	15			16	1	1			2	18	2	2						4	22
退職者				9			9					0	9	2					1	1	4	13
転入者			1	24			25	1	1			2	27	3	3						6	33
新任者							0					0	0						1		1	1
再任用(新任)							0					0	0								0	0
差引増減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	△1	1		0	0	0	△1	△1	△1

(2) 現員数

(令和7年8月31日現在)

(単位:人)

職名 区分	本務職員											臨時・会計年度任用職員							合計				
	教育職員						行政職員					本務計	教諭(任)	教諭(臨)	主事・臨時	医療的ケア看護職員	実習支援指導員	就労促進専門員		非常勤嘱託員	非常勤労務職員	小計	
	校長	副校長	教頭	教諭	養護教諭	栄養教諭	小計	事務長	主査	主任	主事												小計
男		1		35			36	1		1		2	38		2			1		2	2	7	45
女	1		1	58	2	1	63		1	1		2	65	9	4	1	1		1	2	5	23	88
計	1	1	1	93	2	1	99	1	1	2	0	4	103	9	6	1	1	1	1	4	7	30	133

(3) 健康管理について

【令和6年度】

ア 健康管理の推進

(ア) 職員の健康管理のため、教職員健康診断(結核・生活習慣病・婦人科・指定年齢健診・人間ドック・脳ドック)の完全な実施を図るとともに、疾病の早期発見・早期治療と健康相談等の事後措置により、職員の健康の保持増進に努めた。また、情報機器作業従事者健康診断については、教職員に周知し一次健診対象者を抽出している。

- (4) 学校職員衛生委員会を月1回開催し、職場の環境改善に努めている。学校職員衛生委員会で話題になった内容や改善された箇所については、毎月の「学校職員衛生委員会だより」に季節の健康管理の話題と共に掲載し、教職員に周知している。また、同時に健康管理医にも送り、意見をもらっている。昨年度に続き、教職員のメンタルヘルスの向上のため、職場の健康づくり支援事業を活用し、自分でできる「セルフケア」を中心に「メンタルヘルス」について学んだ。

イ 感染症対策

新型コロナウイルス感染症やインフルエンザに伴う対応については、マニュアルを作成し、教職員の健康管理、職場の環境整備、罹患時の対応等について周知している。また、他の感染症も、校内の流行状況や感染予防について、掲示板等を活用し注意喚起をしている。

【令和7年度】

ア 健康管理の推進

- (ア) 職員の健康管理のため、教職員健康診断（結核健診・生活習慣病健診・婦人科検診・指定年齢健診・人間ドック・脳ドック）の完全な実施を図るとともに、健康診断の結果から疾病の早期発見・早期治療を促し、健康相談等の事後措置により、職員の健康の保持増進に努めている。また、情報機器作業従事者健康診断については、その目的を教職員に周知し一次健診対象者を抽出した。
- (イ) 学校職員衛生委員会を月1回開催し、職場の環境改善に努めている。学校職員衛生委員会で話題になった内容や改善された箇所については、毎月の「学校職員衛生委員会だより」に季節の健康管理の話題と共に掲載し、教職員に周知している。また、同時に健康管理医にも送り、感想や意見をもらっている。今年度は、教職員のメンタルヘルスの向上のため、職場の健康づくり支援事業を活用し、自分でできるセルフケアを中心に「自力整体」について学んだ。

イ 感染症対策

新型コロナウイルス感染症やインフルエンザに伴う対応についてはマニュアルを作成し、教職員の健康管理、職場の環境衛生、罹患時の対応について周知している。また、麻しんについては、罹患者が発生した場合の対応について、分校養護教諭と共に熟慮している。

他の感染症についても、校内の流行状況や感染予防対策について、掲示板等を活用し注意喚起をしている。

ウ 災害時対策

災害時に校内で泊を伴う避難をする場合に備え、トイレの運用について考え、災害時トイレセットを作成し各トイレに設置すると共に、防災研修で教職員に周知した。また、災害時の薬の配布方法について、より安全で確実な方法で実施できるよう整備した。

(4) 教職員の研修について

【令和6年度】

ア 研修目標

研究主題を「確かな学びを積み重ね、自らの良さを発揮できる授業づくり」として継続し、2カ年の研究に取り組む。国語、算数・数学の授業実践に焦点を当て、知的障害のある児童生徒の教科による学びの総体を整理しつつ、一人一人の学習状況や学び方に応じた授業づくりの方略を蓄積することを目指す。

イ 研修テーマ

(ア) 研究主題

確かな学びを積み重ね、自らの良さを発揮できる授業づくり

(イ) 令和5、6年度 研究テーマ

一人一人の学び方に応じた問いを見出す国語、算数・数学の授業実践

ウ 研修内容

学習評価、指導の評価に基づく授業改善に取り組むPDCAサイクルの中で、問題解決に向けた気づきや思考の働く授業づくりの工夫を具体化し、確かな学びを積み上げる授業実践を行う。

エ 具体的取組内容

	取組内容
学部 研修	<p>学部ごとのサブテーマに基づく授業研究の推進</p> <p>(ア) ラーニングマップを用いた学習状況の診断的評価の精緻化 ○ラーニングマップを用いた、国語、算数・数学における児童生徒個々の学習状況把握 (年3回)</p> <p>(イ) グループ1 授業研究 (国語、算数・数学) の実施と段階ごとの授業実践の充実 ○知的障害各教科の系統性を踏まえた単元デザインや、段階に応じた目標、内容、支援、評価の工夫 ○教材開発、問いや展開の工夫、アウトプットを促す工夫など、各学部の授業づくりの重点に即した授業づくりの工夫</p> <p>(ウ) 学習評価に基づく授業改善 ○単元、授業デザインシートの活用による、単元における個々の学習状況の評価、指導の評価の一体的な実施 ○観点別学習評価の3観点に基づく評価規準、評価基準を設定した学習評価の充実</p>
全体 研修	<p>(ア) 専門性向上研修 (助言者招へい 静岡大学准教授) ○国語、算数・数学の授業づくり学習会</p> <p>(イ) 夏季テーマ別学習会 ○13のテーマ (自立活動、認知発達、実態把握、キャリア教育、知的障害の授業づくり、メタ認知、知的障害の教科書、作業学習、音楽の指導、体育の指導、図工・美術の指導、卒業後の生活、交流) の学習会の実施</p> <p>(ウ) 国語、算数・数学の教材マップの作成</p>
授業 研究会	<p>(ア) 中心授業の実施と研究協議 ○国語、算数・数学の授業研究と研究協議</p>

【令和7年度】

ア 研修目標

研究主題を「確かな学びを積み重ね、自らの良さを発揮できる授業づくり」として継続し、2カ年の研究に取り組む。各教科等を合わせた指導 (小学部は生活単元学習、中学部・高等部は作業学習) の授業実践に焦点を当て、知的障害のある児童生徒の各教科の学習内容の学び方を整理しつつ、一人一人の実態に応じた授業づくりの方略を蓄積することを目指す。

イ 研究テーマ

(ア) 研究主題

確かな学びを積み重ね、自らの良さを発揮できる授業づくり

(イ) 令和7、8年度 研究テーマ

子どもの思考が「芽生え」、「伸長し」、「拡がる」授業づくり

ウ 研修内容

- ・児童生徒個々の障害の状況、生活の状況、学習の状況を把握する。
- ・発達段階における問いの工夫を授業づくりに活用する中で、段階や学習者の学び方、特性に応じた活動を、展開、支援の工夫を行う。
- ・観点別学習状況の評価の3観点に基づく学習評価の計画を立て、単元デザインシートを活用し、単元における個々の学習状況の評価、指導の評価を一体的に実施する。
- ・単元の評価を年間指導計画の見直しにつなげる。

エ 具体的取組内容

	取組内容
学部 研修	<p>学部ごとの研究テーマに基づく授業研究の推進</p> <p>(ア)ラーニングマップを用いた学習状況の診断的評価の精緻化 ○ラーニングマップを用いた、国語、算数・数学における児童生徒個々の学習状況把握（年3回）</p> <p>(イ)授業研究（生活単元学習・作業学習）の実施 ○学部教育目標と目指す児童・生徒像を踏まえ、各教科等を合わせた指導の特徴を生かした授業づくりを行う。 ○7年度は校内アドバイザーを設置し、アドバイザーは12年間の系統性を踏まえた指導助言を行う。</p> <p>(ウ)学習評価に基づく授業改善 ○単元、授業デザインシートの活用による、単元における個々の学習状況の評価、指導の評価の一体的な実施する。</p>
全体 研修	<p>(ア) 学習会の実施 ○各教科等を合わせた指導における基礎研修を全体で実施する。 ○各学部対象、また希望者対象の学習会を実施し、専門性向上を図る。 ○夏季テーマ別学習会（生活単元学習、作業学習、音楽、体育、美術、情報、教育相談等）を実施する。</p> <p>(イ) 情報提供 ○書籍や最新とトピックスなどの紹介をする。 ○他校の授業研究会や授業実践の紹介をする。</p>
授業 研究会	<p>(ア)中心授業の実施と研究協議 ○小学部では生活単元学習、中学部・高等部では作業学習の授業公開と研究協議を行う。</p> <p>(イ)定期訪問での公開授業研究会の実施 ○小学部、高等部で授業公開と研究協議を行う。</p>

6 防災対策について

【令和6年度】

ア 指導目標

児童生徒が安全に安心して生活できるよう防災防犯体制を整える。

イ 具体的取組

- ・緊急時や災害時の行動の整理と訓練を実施する。（火災、地震、水害訓練の実施）
- ・緊急時や災害時の役割と動きを理解し、適切に対応をする。
- ・児童生徒が自分で身を守るための安全教育を実施する。
- ・KY（危険予知）ミーティングを各学期に実施し、校内環境や校内外の危険個所を確認する。
- ・定期的に備品点検や設備の安全点検を実施する。
- ・地域や保護者と連携し、防災における自助・共助の充実を図り、訓練を実施する。
- ・避難所としての機能を考慮し、災害時、円滑に避難生活や児童生徒の引渡しができるよう環境や仕組みを調整する。

ウ 防災訓練実施状況

実施月	内 容
4 月	・KY（危険予知）ミーティング①（捜索マニュアル第1ステージ確認） ・職員「危機管理研修」（防災等の危機管理マニュアル）
5 月	・救命講習会 ・火災防災訓練（スモーク体験、水消火器訓練、消防車見学）
7 月	・大雨洪水浸水訓練
8 月	・職員防災体制訓練（I-DEA、校内防災体制確認） ・災害時情報伝達訓練
9 月	・全校総合防災訓練 非常食試食体験 新1年生災害時引き渡し訓練 ・高等部起震車訓練

	・高等部防災出前授業（タブレット端末を使用した学習）
10月	・KY（危険予知）ミーティング②（検索訓練）
12月	・居住地域防災訓練参加確認 ・災害伝言ダイヤル体験 ・コクー安否確認訓練（予定） ・スクールバス災害時対応机上訓練（予定/SB委員会）
1月	・KY（危険予知）ミーティング③（防犯訓練）
2月	・地震抜き打ち訓練

【令和7年度】

ア 指導目標

児童生徒が安全に安心して生活できるよう防災防犯体制を整える。

イ 具体的取組

- ・緊急時や災害時の行動の整理と訓練を実施する。（防犯、火災、地震、水害訓練の実施）
- ・緊急時や災害時の役割と動きを理解し、適切に対応をする。
- ・児童生徒が自分で身を守るための安全教育を実施する。
- ・KY（危険予知）ミーティングを実施し、校内環境や校外の危険個所を確認する。
- ・定期的に備品点検や設備の安全点検を実施する。
- ・地域や保護者と連携し、防災における自助・共助の充実を図り、訓練を実施する。
- ・避難所としての機能を考慮し、災害時、円滑に避難生活や児童生徒の引渡しができるよう環境や仕組みを調整する。

ウ 防災訓練実施状況

実施月	内 容
4月	・KY（危険予知）ミーティング①（検索マニュアル第1ステージ確認） ・職員「危機管理研修」（防災等の危機管理マニュアル）
5月	・救命講習会 ・火災避難訓練（スモーク体験、水消火器訓練、消防車見学）
6月	・大雨洪水浸水訓練 ・体験型防犯講座 ・検索訓練（検索マニュアル第3ステージ確認）
8月	・職員防災体制訓練（校内防災体制確認） ・災害時情報伝達訓練
9月	・全校総合防災訓練 非常食試食体験 1、2年生災害時引き渡し訓練 ・高等部起震車訓練 ・高等部防災出前授業（タブレット端末を使用した学習）
11月	・災害伝言ダイヤル訓練
12月	・居住地域防災訓練参加確認 ・コクー安否確認訓練（予定） ・スクールバス災害時対応机上訓練（予定/SB委員会）
1月	・防犯訓練
2月	・地震抜き打ち訓練

7 学校開放について

地域に開かれた学校を目指し、体育館等学校施設を開放している。

【令和6年度】

施設名	利用種目	利用日数	使用料(電気代)
体育館	運動機能訓練会	3日	0円
	福祉イベント	2日	0円
	スポーツ行事	5日	1,065円
運動場	スポーツ行事	1日	0円

【令和7年度】

施設名	利用種目	利用日数	使用料(電気代)
体育館	運動機能訓練会	3日	164円
	スポーツ行事	1日	0円
	防災訓練	1日	0円

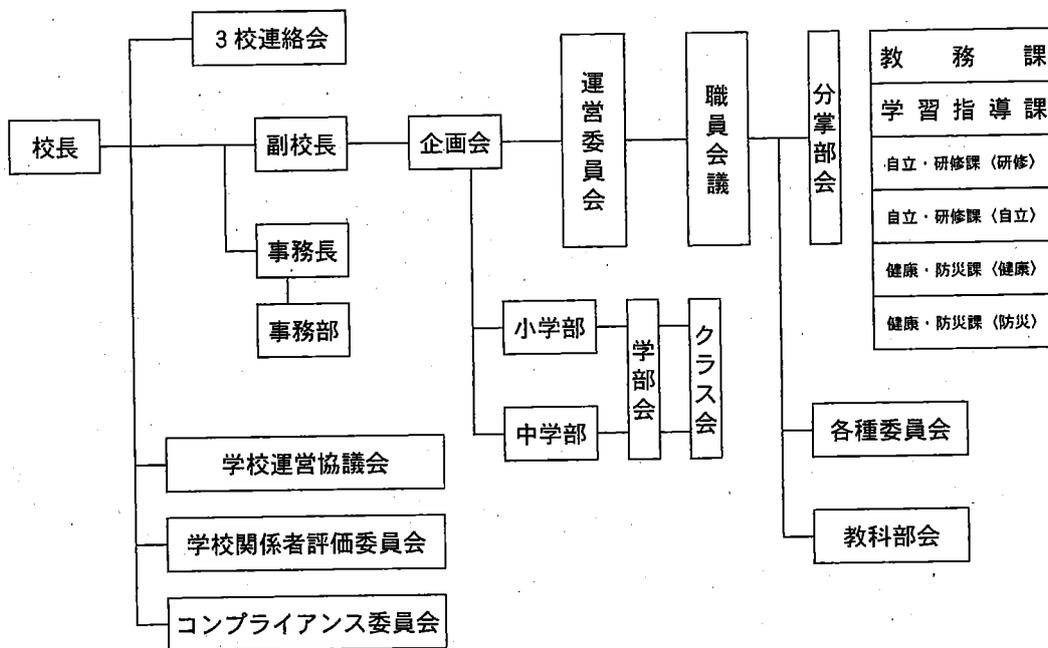
事務事業の概要（伊豆下田分校）

1 概要

(1) 学校の沿革

- 昭和 48. 4. 1 賀茂郡知的障害者施設組合伊豆つくし学園の開設に伴い、下田市立稲梓小学校及び、稲梓中学校の分校として、同施設内に設置
- 50. 4. 1 特殊学級(肢体不自由)が認可され、小・中学校に各1学級設置
- 54. 4. 1 養護学校教育義務制実施に伴い、県立東部養護学校伊豆つくし分教室となる
- 平成 11. 4. 1 東部養護学校伊東分校伊豆つくし分教室と所属変更
- 20. 3. 31 静岡県立東部養護学校伊東分校伊豆つくし分教室廃止
- 20. 4. 1 静岡県立東部特別支援学校伊豆下田分校として下田市立下田小学校敷地内に開校
- 令和 3. 4. 1 本校変更に伴い学校名が静岡県立伊豆の国特別支援学校伊豆下田分校となる

(2) 組織図



各種委員会		
校内就学支援委員会	防災対策委員会	学校自己評価委員会
地域連携委員会	交通安全対策委員会	人権・いじめ防止対策委員会
共生・共育推進委員会	職員安全衛生委員会	校内医療的ケア委員会
研修推進委員会	学校保健委員会	学習発表会実行委員会

2 目指す学校像

(1) 教育目標

「良さが輝き 未来をひらく」

一人一人が確かな学びを積み重ね、仲間や地域とつながりながら、自分の良さを生きる力へと輝かせ、夢や希望をもち、自ら未来をひらく（「開く」「拓く」「啓く」）人を目指す

(2) 目標具現化の柱

- ア【安全・安心】 命と健康を守り、人権を尊重し、一人一人を大切にする学校
- イ【専門性】 確かな力を積み上げ、一人一人の良さを引き出す学校
- ウ【連携】 保護者や地域と連携し、児童生徒の社会参加を目指す学校
- エ【チーム学校】 教職員が主体的に学校づくりに参画する学校

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等（重点目標はゴシック体で記載）

【令和6年度】

＜安全・安心＞

取組目標	成果目標	達成状況	評価	○成果と●課題
生命の尊さや人とのつながりを大切にし、一人一人の良さを受け入れ、互いを思いやる心の醸成	・各学部の経営計画に基づき、児童生徒の命が守られていると答える教職員や保護者 (AB100%)	・マニュアルの見直しや防災備品の整備を実施した。 ・ヒヤリハットの情報共有体制をより迅速に共有できるように整備した。(AB100%)	A	○防災体制を、訓練ごとに見直し、下田小学校とも検討することができた。 ●引き続き、防災以外にも、ヒヤリハットや緊急時対応等、その都度、見直しをして意識できるようにする。
	・信頼できる教職員に向けて、自身の行動を振り返ることができた教職員 (AB80%)	・人権チェック等で自己を振り返ることができた。(AB100%)	B	○児童生徒や教職員に対して人権に配慮した行動がとれている。 ●自己評価だけでなく、引き続き教員間で指摘や助言し合える雰囲気を作るようにする。
命のつながりを実感する食育の推進	・給食センターと連携し、安全な給食提供ができたと答える教職員及び保護者 (AB90%)	・センターと連携し、安全な給食を提供することができた。(AB100%)	A	○気になったことは、すぐ声を上げ、給食センターに連絡し確認することが定着している。
	・食と各教科等の関連を意識した指導をした教職員 (AB90%)	給食や調理、栽培活動や買い物学習等を通して食育を指導した。(AB93%)	B	○センター栄養士による食育教室を2回実施し、児童生徒の食べ物や健康への関心や理解が深まった。 ●来年度は、給食センターの給食だより等を活用して、より体験的な食育指導を充実させる。
児童生徒の命を守る安全教育の充実	・緊急時の対応や防犯防災訓練をとおして、児童生徒の安全を守る行動を身につけた教職員(AB100%)	・実践的な訓練や専門家の講義や助言を受けて、児童生徒の安全を守る行動を身につけることができた。(AB100%)	A	○防犯訓練の課題から、事務と連携して鍵の設置など校内環境を改善した。 ●児童生徒の緊急時対応は、今後も訓練を繰り返して全教員が迅速に役割を分担し、的確に動けるようにする。

<専門性>

取組目標	成果目標	達成状況	評価	○成果と●課題
主体的・協働的・深い学びによって、資質・能力を育成する授業実践	・児童生徒の学びを見取り、適切な目標設定と評価ができた教員 (AB100%)	・ラーニングマップを活用しての実態把握と目標設定、特性に注目した一人一授業を実施することができた。 (AB100%)	B	○特性や学び方に着目することで、児童生徒の理解が深まった。 ●適切な目標設定や授業改善の力は、教職員で個人差がある。目標設定やグループ研修で授業について深い検討ができるように、効果的な研修の持ち方等を見直す。
	・ラーニングマップの活用による授業づくりを行い、実践後に授業改善を進めた教員 (AB100%)			
特別支援教育の専門性の向上	・障害の特性に応じた支援や学習指導要領に基づく研修ができた教員 (AB100%)	・障害特性や摂食、身体機能、ICTにおいて、専門家を招いて研修を行った。 (AB100%)	A	○専門家の助言や研修内容を共有して、実際の生活や指導に生かすことができた。 ●来年度も、指導ニーズにあった講師招聘や専門分野の研修を精選して実施する。
	・PCやタブレットの活用により、授業準備の効率化や学習の定着に効果を得た教員 (AB90%)	・PCやタブレット活用は増加し、授業準備や授業で効率的に活用している。(AB100%)	A	○タブレットを使い、生徒が主体的に取り組む授業実践を参観し合い、刺激になった。 ●効率的な活用方法や実践を共有し、さらに他校の活用情報も紹介し取り入れる。

<連携>

取組目標	成果目標	達成状況	評価	○成果と●課題
キャリア教育の視点で小中学部、高等部のつながりと、児童生徒の願いや夢を大切にしたい進路指導の充実	・小中の系統性や将来を意識して指導できた教員 (AB90%)	・生活年齢や高等部卒業後を想定する必要性を、意識することができた。(AB100%)	B	●生活年齢や高等部卒業後を意識し、そのために、今と数年後に必要な課題を、保護者とともに段階的に考えて指導する。
	・児童生徒に応じた適切な情報提供や、進路指導ができたと答える教員及び保護者 (AB90%)	・中学部では進路学習の中で、高等部見学を実施した。 ・保護者に卒業生のお話を聞く進路学習会や伊豆松崎分校の進路見学を実施した。 (AB100%)	A	○生徒や保護者が、進路先の一つである高等部を実際に見ることは、児童生徒の夢や願いを考える上で有効だった。 ●児童生徒・教職員・保護者の進路学習の系統的な計画を整理する必要がある。 ●保護者へのニーズに合った情報提供と、研修会や進路見学への参加意識を高めることが必要である。
保護者や地域住民との協働を推進し、地域と共に歩む学校づくり	・各学部において、適切な交流を計画し、地域に貢献できたと感じる教職員 (AB100%) ・地域を活用した学習活動をおとして、児童生徒が意欲的に学んだと感じる教職員及び保護者 (AB100%)	・下田小学校、交流籍を活用した居住地校交流、地域の高校との交流を積極的に進めることができた。 ・ディサービスや市の芸術祭等の地域資源を新規に活用した。 ・中学部は作業製品を媒介に、地域の観光施設や福祉施設と積極的に交流することができた。(AB100%)	A	○分校児童生徒が交流を楽しみにし、交流先の児童生徒の共生へ意識の成長も感じられた。 ●限られた時間や制約の中で、より充実した交流ができるように、内容や打合せ等の工夫が必要である。 ○地域での交流では、生徒が意欲的に活動する姿が見られた。 ●地域を活用した学習において「地域に何が貢献できたか」を検証し、価値づけることが必要である。

<チーム学校>

取組目標	成果目標	達成状況	評価	○成果と●課題
特別支援学校のセンター的機能の充実及び関係機関との連携の強化	・センター的機能による成果の整理及び検証（毎学期）	・賀茂地区の幼保園小中高からの支援依頼に対応した。 ・見学や支援、会議、講義等、ニーズに合った支援ができた。 (AB100%)	A	○6人の教員が校外の支援にかかわった。支援を担う教員を増やすことができた。 ●引き続き依頼への支援に終わらず、地域の特別支援教育の課題改善につながる支援内容や工夫を検討する。
	・学校内外の情報共有と、支援会議やケース会議等での案件の整理及び成果の検証（毎学期）	・地域の関係機関や支援者と連携して、校内のケースに対応した。 (AB100%)	A	○校内のケースでは、教員や保護者に、家庭や学校内だけでなく関係機関と連携して課題解決していくという共通認識ができた。
教職員一人一人が責任をもった業務遂行と、やりがいを感じる働き方の推進	・キャリアステージと自己目標シートに基づき、自身の役割を理解して経営に携わった教職員 (AB100%)	・少数の分校なので、一人が複数の役割を持って業務に当たり、経営に参画した。 (AB100%)	B	○面談等で自身のキャリアステージや役割を考える意識が高まった。 ●組織の中で、人材育成の視点を持って経営に参画する意識の向上が必要である。
	・計画的な業務遂行のために努力し、働き方を改善できた教職員 (AB90%)	・働き方や効率を見直し、長時間勤務の教員はいなかった。 (AB93%)	B	○ペーパーレスや、PC会議など、効率化できるものをすすめ、定着しつつある。 ●教職員個々のタイムマネジメントや、校内業務を俯瞰し、効率化を考える視点を持つことが必要である。

【令和7年度】

<安全・安心>

取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
生命の尊さや人とのつながりを大切に、一人一人の良さを受け入れ、互いを思いやる心の醸成	・児童生徒の命を第一に考え、一人一人の気持ちや願いを受け止める支援の充実	・各学部の経営計画に基づき、児童生徒の命が守られていると答える教職員や保護者 (AB100%)
	・人権感覚を高め、声を掛けやすい雰囲気と、いじめや教職員の不祥事を見逃さない体制づくり	・信頼できる教職員に向けて、自身の行動を振り返ることができた教職員 (AB100%)
命のつながりを実感する食育の推進	・地域の産物や生産者、献立や食材の特長と栄養等、6つの食育の視点を意識した食育の実践、及び給食センターと連携した給食の提供	・給食センターと連携し、食育指導や安全な給食提供ができたと答える教職員及び保護者 (AB90%)
児童生徒の命を守る安全教育の充実	・実効性の高い訓練方法を探るとともに、緊急時において、主体的に行動できる実践力の育成 ・ヒヤリハットの迅速な報告と共有及び今後にかさず取組	・緊急時の対応や防犯防災訓練をとおして、自分の身の守り方を学んだ児童生徒・教職員 (AB80%)

<専門性>

取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
主体的・協働的・深い学びによって、資質・能力を育成する授業実践	・一人1授業研による学び合う校内研修の工夫と、授業力の向上	・ラーニングマップ等の活用による授業づくりを行い、実践後に授業改善を進めた教員（AB90%）
	・多面的な実態把握から学習課題を設定した、国語・算数数学の授業実践及び授業改善	・児童生徒の実態と学びを見取り、適切な目標設定と評価ができた教員（AB90%）
特別支援教育の専門性の向上	・児童生徒の実態や障害特性に応じた指導のための校内研修の充実	・障害の特性に応じた支援や学習指導要領に基づく研修ができた教員（AB90%）
	・PCやタブレット活用による主体的学びとICT教育の推進	・PCやタブレット等の活用により、授業準備の効率化や学習の定着に効果を得た教員（AB80%）

<連携>

取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
キャリア教育の視点で小中学部、高等部のつながりと、児童生徒の願いや夢を大切にしたい進路指導の充実	・個別の指導計画を基に、児童生徒の実態と将来を見据えた指導の充実	・小中高の系統性や将来を意識して指導できた教員（AB90%）
	・児童生徒の願いや夢を叶えるための地域社会の幅広い情報や、進路情報の提供の充実	・児童生徒に応じた適切な情報提供や、進路指導ができたと答える教員及び保護者（AB90%）
地域住民との協働を推進し、地域と共に歩む学校づくり	・児童生徒及び教職員が地域に貢献し、地域で活躍できる場や環境の設定	・各学部において、適切な交流を計画し、地域に貢献できたと感じる教職員（AB85%）
	・児童生徒や教職員が、地域の自然や歴史、産物等に触れ、地域の良さを感じる地域活動の充実	・地域の資源や人材を活用した学習活動をとおして、児童生徒が意欲的に学んだと感じる教職員及び保護者（AB85%）

<チーム学校>

取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
特別支援学校のセンター的機能の充実及び関係機関との連携の強化	・支援要請に対し、迅速且つ適切な相談と継続した支援の実施	・センター的機能による成果の整理及び検証（毎学期）
	・外部関係諸機関との連携と、迅速で丁寧につなぐ支援体制づくり	・学校内外の情報共有と、支援会議やケース会議等での案件の整理及び成果の検証（毎学期）
教職員一人一人が責任をもった業務遂行と、やりがいを感じる働き方の推進	・教職員一人一人が、業務に責任をもち、学部や学校経営への参画の意識の醸成	・キャリアステージと自己評価シートに基づき、自身の役割を理解して分掌や学部学年の運営等に携わった教職員（AB90%）
	・学部及び分掌、事務部の業務内容の精選と、教職員一人一人のタイムマネジメント等働き方の意識改革	・計画的な業務遂行のために努力し、働き方を改善できた教職員（AB100%）

4 監査対象期間における特色ある取組

【令和6年度】

取組概要	成果及び課題
地域資源の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光地である地域の資源（下田公園、ベ이스テージ、伊豆グランパル公園、道の駅、石廊崎オーシャンパーク等）を活用し、体験を通して様々な学習に取り組んだ。</li> <li>目的地は近場の学校周辺から範囲を広げていき、交通手段も徒歩から公共交通の利用に発展させるなど、学年に応じて段階的な学習を実施した。</li> <li>下田公園のあじさいを見ての美術のリースづくり等、観光資源を教材として活用する学習を実施した。</li> </ul>
地域との交流 地域人材活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学部は、地域の商工会・竹楽しみまくる会と一緒に竹灯籠を製作し、地域のイベントへ展示参加した。</li> <li>中学部は近隣施設（郷土資料館、了仙寺、デイサービスセンター）への作業製品の配架を行い、地域の観光に貢献したり、様々な年齢層や職種の方との交流に取り組んだりした。</li> <li>市立図書館に、児童生徒の図工美術作品の展示を夏休み期間に行い、秋には新規に市民文化会館アートギャラリーにも作品展示をした。</li> <li>下田小学校と合同で新日本フィル演奏会へ参加した。</li> <li>街中にある立地条件を生かして、買い物学習等を積極的に実施した。</li> <li>地域人材（下田吹奏楽団・読み聞かせボランティア童、人形劇あしたば、ジオパークガイド等）を活用した学習活動を行った。</li> </ul>
居住地校交流・ 学校間交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前打合せ、情報交換を十分に行い、当日の交流活動の充実や工夫に繋げた。</li> <li>伊豆下田分校や児童生徒について理解してもらうために、教員が下田小学校への出前授業を全学年対象に、下田高校南伊豆分校への出前授業は高1を対象に実施した。</li> <li>中学部は下田高校南伊豆分校と園芸活動を通じた交流を、年間を通して行い、伊豆下田分校の学校花壇の活動に繋げた。</li> </ul>
下田小学校と 協同活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事だけでなく、授業交流や休み時間に自然に交流できる場を設定し、下田小学校児童の分校児童生徒への理解が深まるようにした。</li> <li>小学部は、下田小学校との合同運動会を実施。交流種目を設け、当日だけでなく練習から一緒に取り組んだ。</li> <li>下田小学校と火災、地震などの災害を想定した合同の避難訓練を実施し、小学校と防災について共通認識している。担当教員間での防災会議を実施した。</li> </ul>
専門性向上研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>P.T・O.T・大学教授等の講師を招いて、専門的な指導により、児童生徒への適切な対応に努めた。</li> <li>講義だけでなく、体験や事例検討を行うことで、より深く児童生徒理解につなげ、実際の指導に活かすことができた。</li> </ul>

【令和7年度】

取組概要	成果及び課題
地域資源の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光地である地域の資源（下田公園、ベ이스テージ、伊豆グランパル公園、道の駅、商工会等）を活用し、体験を通して様々な学習に取り組んでいる。</li> <li>目的地は近場の学校周辺から範囲を広げていき、交通手段も徒歩から公共交通の利用に発展させるなど、学年に応じて段階的な学習を実施している。</li> <li>ペリー来校と開国をふまえた下田街探検等、観光資源を教材として活用する学習を実施している。</li> </ul>
地域との交流 地域人材活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学部は、地域の商工会・竹楽しみまくる会と一緒に竹灯籠を製作し、地域のイベントへ展示参加している。商工会・竹楽しみまくる会の方を招いて校内での点灯式と謝恩会を行った。</li> <li>中学部は近隣施設（郷土資料館、了仙寺）への作業製品の配架を行い、地域の観光に貢献したり、様々な年齢層や職種の方との交流に取り組んだりしている。</li> <li>市立図書館に、児童生徒の図工美術作品の展示を夏休み期間に行い、秋には2年目となる市民文化会館アートギャラリーにも作品展示を予定している。</li> <li>下田小学校と合同で新日本フィル演奏会へ参加している。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・街中にある立地条件を生かして、買い物学習等を積極的に実施している。</li> <li>・地域人材（下田吹奏楽団・読み聞かせボランティア童、人形劇あしたば、地域の和菓子店等）を活用した学習活動を行う。</li> </ul>
居住地校交流・ 学校間交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前打合せ、情報交換を十分に行い、当日の交流活動の充実や工夫に繋げている。</li> <li>・伊豆下田分校や児童生徒について理解してもらうために、教員が下田小学校への出前授業を全学年対象に、下田高校南伊豆分校への出前授業は高 1 を対象に実施している。</li> <li>・中学部は「ともだちプロジェクト」下田高校南伊豆分校と園芸活動を通じた交流を行い、伊豆下田分校の学校花壇の活動に繋げている。</li> <li>・中学部は下田中学校との交流を再開し、下田中学校支援学級とのポッチャ交流を、年間を通して実施している。</li> </ul>
下田小学校と 協同活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事だけでなく、授業交流や休み時間に自然に交流できる場を設定し、下田小学校児童の分校児童生徒への理解が深まるようにしている。</li> <li>・小学部は、下田小学校との合同運動会を実施している。交流種目を設け、当日だけでなく練習から一緒に取り組んだ。</li> <li>・下田小学校と火災、地震などの災害を想定した合同の避難訓練を実施し、小学校と防災について共通認識している。今年度は、夏季休暇中に両校の職員が合同で、職員防災研修・防犯研修を実施し、課題点を共有した。</li> </ul>
専門性向上研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・P T・O T・大学教授等の講師を招いて、専門的な指導により、児童生徒への適切な対応に努めている。下田小学校職員にも案内し参加を呼び掛けている。</li> </ul>

5 教職員について

(1) 令和6年度異動状況

〈伊豆下田分校〉

(単位:人)

職名 区分	本務職員							会計年度任用職員						合計	
	教育職員				行政職員			本務計	教諭(任)	教諭(臨)	養護教諭(臨)	医療的ケア看護職員	非常勤労務職員		小計
	副校長	教頭	教諭	養護教諭	小計	主査	小計								
転出者			3		3		0	3	1					1	4
退職者			1		1		0	1		1	1	1	3	6	7
転入者			1	1	2		0	2	1	2				3	5
新任者			2		2		0	2		1				1	3
再任用(新任)			1		1		0	1				1	3	4	5
差引増減	0	0	0	1	1	0	0	1	0	2	△1	0	0	1	2

(2) 現員数

(令和7年8月31日現在) (単位:人)

職名 区分	本務職員							会計年度任用職員					合計	
	教育職員				行政職員			本務計	教諭(任)	教諭(臨)	医療的ケア看護職員	非常勤労務職員		小計
	副校長	教諭	養護教諭	小計	主査	小計								
男		7		7	1	1	8					0	8	
女	1	7	1	9		0	9	1	2	1	3	7	16	
計	1	14	1	16	1	1	17	1	2	1	3	7	24	

(3) 健康管理について

【令和6年度】

- ア 教職員全員が生活習慣病健診と結核健診、人間ドッグ、脳ドッグ、指定年齢検診のいずれかを受診し、疾病の早期発見と健康保持に努める。再検査になった職員全員が再検査を受け、医師から指導・治療を受けた。
- イ 県が実施するVDT健診・腰痛健診に関して2次検診実施者は指導を受けた。
- ウ 毎朝のストレッチ体操や、感染症情報の随時提供等を実施し、職員の健康管理意識を高めた。
- エ 教職員に「職場の健康づくり講座」について希望アンケートを取って講座を決定し、実施した。
- オ 職員安全衛生委員会を毎月開き、職場の環境改善に努めた。また、相談しやすい雰囲気づくりに努め、定時退勤日や会議の時間を設定するなど、働きやすい職場づくりになるように努めた。

【令和7年度】

- ア 教職員全員が生活習慣病健診と結核健診、人間ドッグ、脳ドッグ、指定年齢検診のいずれかを受診し、疾病の早期発見と健康保持に努める。再検査になった職員全員が再検査を受け、医師から指導・治療を受ける。
- イ 県が実施するVDT健診・腰痛健診に関して2次検診対象者は指導を受けるものとする。
- ウ 毎朝のストレッチ体操や、感染症情報の随時提供等、職員の健康管理意識を高める。
- エ 教職員に「職場の健康づくり講座」について希望アンケートを取って講座を決定し、セラピス講座を実施。メンタルヘルス向上に努める。
- オ 職員安全衛生委員会を毎月開き、職場の環境改善に努める。また、相談しやすい雰囲気づくりに努め、定時退勤日や会議の時間を設定するなど、働きやすい職場づくりになるように努める。

(4) 教職員の研修について

【令和6年度】

- ア 研修目標  
学校教育目標の実現を目指し、日々の教育実践と授業改善に資する研修を推進する
- イ 研修テーマ  
児童生徒が思考しながら取り組む国語、算数(数学)、自立活動の授業づくり  
～児童生徒の学び方に応じた授業実践を目指して～
- ウ 研修内容

研修内容	成果と課題
学習指導要領とラーニングマップを活用して、教科の系統性や段階STEPを踏まえた思考を導く授業づくりをする。	・外部講師による講義を通して、発達の基盤や段階STEPごとの指導ポイントをおさえることで、授業づくりに活かすことができた。
児童生徒一人ひとりの特性や学習状況に応じた活動内容や教材教具の工夫をする。	・グループ研修やクラス研修を通して、授業実践と改善を図ることができた。
グループ研修を通して、学習評価と授業評価を行う。児童生徒一人ひとりの特性や学習状況に応じた授業づくりをブラッシュアップする。	・「目標設定の妥当性」「児童生徒に必要な学習内容の絞り込み」において検討が不十分であり、生活に汎化する視点が必要という課題が残った。

【令和7年度】

- ア 研修目標  
学校教育目標の実現を目指し、日々の教育実践と授業改善に資する研修を推進する
- イ 研修テーマ  
生活に繋がる確かな学びを目指して  
～一人一人の良さや課題を押さえた国語、算数・数学の授業実践～
- ウ 研修内容

研修内容
学習指導要領とラーニングマップ・Sスケール等を活用して、教科の系統性や段階STEPを踏まえ、児童生徒の障害や状態、学習状況を理解し、持っている力や生活および学習上の課題を捉える。

クラス研修とグループ研修を通して、よさや課題をふまえた授業づくりを行い、一人一授業を実施する。公開授業やグループ研修で得た意見をもとに、ブラッシュアップした改善授業を実施する。

## 6 防災対策について

【令和6年度】

### ア 指導目標

児童生徒が安全で安心した生活を過ごせる教育環境を作り、危機管理マニュアルを周知し、緊急時の初動対応、役割について共通理解を図り、命を守るための安全意識を高める。

### イ 取組内容

- ・大規模災害時のシミュレーションや、課題意識を持つての防災訓練、研修会の実施。
- ・下田小学校、下田市危機管理課、下田市教育委員会、地区自治会との連携、役割の確認。
- ・不審者対応マニュアルをもとにした警察と連携した実践的訓練の実施。
- ・災害時用備品の計画的な整備及び防災用品の管理。
- ・裏山避難地の防災倉庫の防災用品の整備と管理。
- ・児童生徒の実態に合った防災教育の実施。
- ・児童、生徒が安全に学校生活を送るための毎月の安全点検と、点検個所の改善。
- ・危機管理マニュアルの見直しを行い、学校安全の実効性を高めた。

【令和7年度】

### ア 指導目標

児童生徒が安全で安心した生活を過ごせる教育環境を作り、危機管理マニュアルを周知し、緊急時の初動対応、役割について共通理解を図り、命を守るための安全意識を高める。

### イ 取組内容

- ・大規模災害時のシミュレーションや、課題意識を持つての防災訓練、研修会の実施。  
児童生徒は下田小学校合同以外に、分校独自でも地震避難訓練を実施。  
地域住民を誘っての地震防災訓練を予定。  
裏山避難地ががけ崩れの場合を想定し、折戸方面への避難訓練を実施。  
二次避難場所の敷根公園を知る目的で、10月に校外学習を実施予定。
- ・下田小学校、下田市危機管理課、下田市教育委員会、地区自治会との連携、役割の確認。  
下田小学校と合同で、発災時の係の動きのシミュレーション研修を実施。マニュアルに追記予定。
- ・不審者対応マニュアルをもとにした警察と連携した実践的訓練を、下田小と合同で実施。不審者が両校舎間を移動することを想定して実施した。
- ・災害時用備品の計画的な整備及び防災用品の管理。
- ・裏山避難地の防災倉庫の防災用品の整備と管理。
- ・児童生徒の実態に合った防災教育の実施。
- ・児童、生徒が安全に学校生活を送るための毎月の安全点検と、点検個所の改善。
- ・危機管理マニュアルの見直しを行い、学校安全の実効性を高める。

## 7 学校開放について

【令和6年度】

学校施設開放 実績なし

【令和7年度】

学校施設開放 実績なし

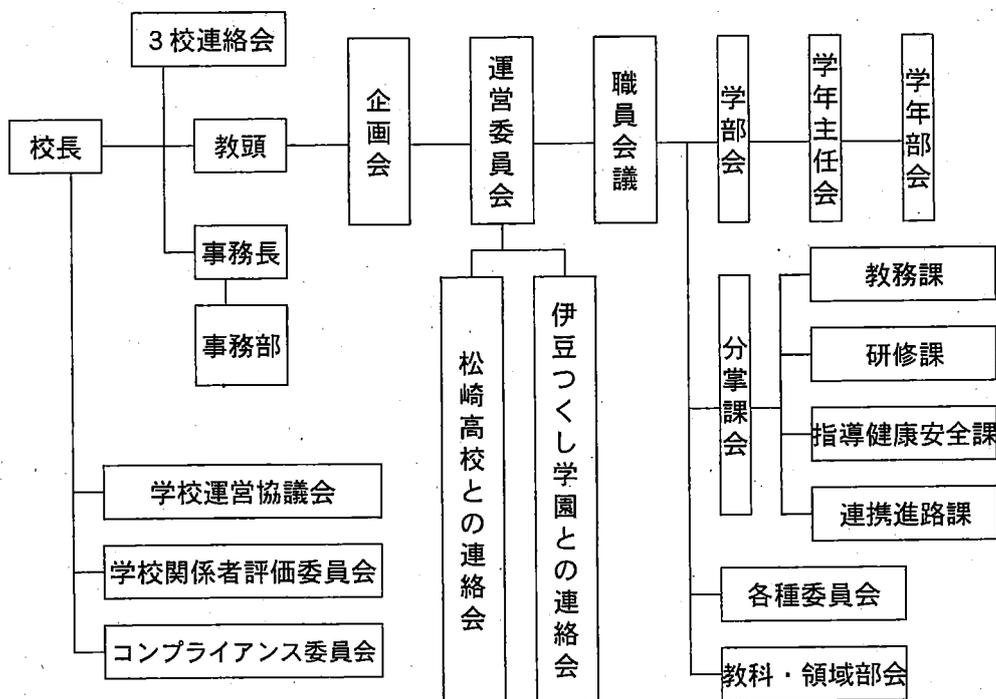
事務事業の概要 (伊豆松崎分校)

1 概要

(1) 学校の沿革

- 平成 23. 4. 1 静岡県立東部特別支援学校伊豆松崎分校として静岡県立松崎高等学校の敷地内に開校
- 23. 4. 8 開校式・入学式
- 26. 3. 11 第1回卒業証書授与式
- 令和 3. 4. 1 本校の変更に伴い学校名が静岡県立伊豆の国特別支援学校伊豆松崎分校となる

(2) 組織図



各種委員会		
・ 入学者選考委員会	・ 人権教育委員会／いじめ防止等対策委員会	
・ 学校保健委員会	・ 交流教育委員会(共生・共育推進) (地域連携)	
・ 職員安全衛生委員会	・ 個別の指導計画検討委員会	
・ 防災対策委員会	・ 個別の教育支援計画検討委員会	
・ 校内就学支援委員会	・ 学校自己評価委員会	・ 研修推進委員会

2 目指す学校像

(1) 教育目標

「良さが輝き 未来をひらく」

一人一人が確かな学びを積み重ね、仲間や地域とつながりながら、自分の良さを生  
きる力へと輝かせ、夢や希望をもち、自ら未来をひらく（「開く」「拓く」「啓く」）  
人を目指す

(2) 目標具現化の柱

- ア【安全・安心】 命と健康を守り、人権を尊重し、一人一人を大切にする学校
- イ【専門性】 確かな力を積み上げ、一人一人の良さを引き出す学校
- ウ【連携】 保護者や地域と連携し、児童生徒の社会参加を目指す学校
- エ【チーム学校】 教職員が主体的に学校づくりに参画する学校

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等（重点目標はゴシック体で記載）

【令和6年度】

<安全・安心>

取組目標	成果目標	達成状況	評価	○成果と●課題
生命の尊 さや人とのつな がりを大切に し、一人一人 の良さを受け 入れ、互いを 思いやる心 の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経営計画に基づき、生徒の人権が守られ、生徒の良さが生かされていると答える教職員や保護者（AB100%）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いじめアンケートと丁寧な聞き取りで生徒の人権を守ることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 帰りの打ち合わせでの生徒のあらわれの共有や、月1回のいじめアンケートを行うことにより、生徒の気持ちに寄り添い丁寧な対応ができています。</li> <li>○ 生徒会による目標の提起で「さん」付けの徹底が図られた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不祥事根絶に向けて自身の行動を振り返ることができた教職（AB100%）</li> <li>・ お互いを認め合う「自己指導能力」が高まった生徒（AB80%）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修等で、不祥事根絶に向けた振り返りができた。生徒の中にも、互いの頑張りを認め合う言葉が出るようになってきた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 不祥事根絶研修をとおして行動を振り返ったり、対話する中で思いを話し合ったりして風通しのよい環境を整えることができた。</li> <li>○ 教職員が生徒の良さを積極的に認めることで、生徒どうしで認め合う様子が見られるようになった。</li> </ul>
命のつな がりを実感 する食育 や健康な 体づくり の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭と連携し生徒の健康や健康な体づくりに取り組んだ教職員及び保護者（AB80%）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長期休業期間中は運動面の取組目標を生徒が立て、家庭でも取り組むことができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の健康状態等について、必要に応じてノートや電話で家庭と共有し迅速に対応できた。</li> <li>○ 朝体育では、どの学年も体力の向上が見られている。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食と各教科等の関連を意識した指導をした教員（AB100%）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭科の中で、栄養や食のバランスなどの学習を計画的に進めることができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事前学習で栄養素や食事について学習する機会を設けることで食の大切さを意識して指導ができた。</li> <li>● 食について学ぶ機会が家庭科に限られてしまった。作業学習や総合的な探究の時間とも関連付けられるよう、全体計画に盛り込む。</li> </ul>

生徒の命を守る安全教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急時の対応や防犯防災訓練をとおして生徒の安全を守る行動を身につけた教職員 (AB100%)</li> <li>防災、防犯の備えが身についた生徒 (80%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災や防犯に関する研修等を通して、自分たちがどのように動くのか、どのような行動が必要かを考え行動することができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○災害の種類によってどこへ避難するか身についた。抜き打ちの訓練でも、生徒が落ち着いて行動できていた。</li> <li>●防犯面に関しては環境を整える必要があり不安もある。</li> </ul>
----------------	--	---	---	--

<専門性>

取組目標	成果目標	達成状況	評価	○成果と●課題
主体的・協働的・深い学びによって資質・能力を育成する授業実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の実態や思考の流れに沿った授業づくりを行った教員 (AB90%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修で取り上げたことで生徒の思考について考えるきっかけができた。授業改善につながる課題をみつけることができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業研の自己研修で、視点を絞って話し合うことで、授業改善のための課題が見つかった。</li> <li>●教師の実態把握が不十分な面もあった。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科別シートの記録により、障害特性に応じた目標設定や支援ができた教員 (AB90%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科別シートを有効に活用し、共有できた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科別シートを記録して、職員間で共有することで適切な指導・支援を行えるようになった。</li> <li>●実態表など、より使いやすいものに改善する。</li> </ul>
特別支援教育に関する専門性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>障害に応じた支援についての考え方を深め実践に生かすことができた教員 (AB100%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他校や自校での研修を定期的に行うことで、考えを深め実践に生かすことができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○指導・支援について共有する場を設け、また他校・自校の研修を有効に指導支援に生かすことができた。</li> <li>●自立活動についての研修が不足している。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT活用により主体的に授業に取り組んだ生徒、また授業づくりや業務効率化に効果を感じた教員 (AB80%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業に積極的にICTを取り入れることにより、生徒は主体的に学習に取り組むことができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校生活の中でICT活用の場面が増えた。生徒がICT機器に触れることが増え、慣れてきている。</li> </ul>

<連携>

取組目標	成果目標	達成状況	評価	○成果と●課題
キャリア教育の視点で生徒の願いや夢を大切	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な面談を実施し、保護者とともに目標の共有と実現に向けて指導できた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者面談を実施し、目標の共有と実現に向け指導できた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者と目標とあわれの共有ができた。特に2、3年生は、実習後面談等を通して進路に関する内容を共有できた。</li> <li>○今年度は新たに1年生の保護者</li> </ul>

にした進路指導の充実	教員 (AB100%)			を対象とした進路説明会を実施した。
	・生徒に応じた適切な情報提供や進路指導ができたと答える教員及び保護者 (AB80%)	・連携進路課を中心に、生徒や保護者の思いを受け入れ、適切に情報提供がなされた。	B	○連携進路課との連携やケース会議をとおして、多くの情報を得ることができ、具体的な指導ができた。 ●進路指導については、保護者向けの説明会や資料などを定期的に配付し、保護者の進路への意識が途切れないようにしたい。
保護者や地域住民との協働を推進し、地域と共に歩む学校づくり	・適切な交流を計画し地域に貢献できたと感じる教職員 (AB80%)	・主に作業学習で地域と交流しながら貢献できた。	A	○桜葉、桑葉、下田メンテナンスをはじめ、適切な交流ができています。地域作業をとおして地域貢献もできている。 ●草取りや石拾いが大事な作業であることを教員は理解しているが、生徒にとっては見通しをもちづらかった。作業学習としての押さえや位置づけの確認が必要である。
	・地域や松崎高校との交流会を活用した学習活動をとおして、意欲的に学んだと感じる生徒、教員及び保護者 (AB80%)	・松崎高校との交流では、生徒が主体的に参加し意欲的な学びが多くみられた。	A	○球技大会、体育祭、防災訓練など、共に取り組む学習活動の機会が多くあり、意欲的に学ぶことができた。生徒にとっては分校内では味わえない体験ができ、興味関心をもって参加できている。 ●分校としての交流の目的を明確にして取り組んでく必要がある。

<チーム学校>

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
特別支援学校のセンター的機能の充実及び関係機関との連携の強化	・センター的機能による成果の整理及び検証。(毎学期)	・連携支援会議などをとおして関係機関との連携が適切にとれている。	A	○部主事、連携進路課長を中心に地域のセンター的機能を果たすことができた。連携支援会議、職場実習をとおして、生徒へ適切な支援ができています。
	・学校内外の情報共有と、支援会議やケース会議等での案件の整理及び成果の検証(毎学期)	・外部機関と連携し指導の方向性を共有できた。	A	○外部機関と必要に応じて情報を共有し、連携して生徒や家庭への支援を行うことができた。

教職員一人一人が責任をもった業務遂行ややりがいを感じる働き方の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアステージと自己目標シートに基づき、自身の役割を理解して経営に携わった教職員 (AB80%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>滞りなく学校運営ができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○役割を明確にして、職員それぞれが経営に携わることができた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画的な業務遂行のために努力し、働き方を改善できた教職員 (AB70%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員一人一人の働き方の工夫により、概ね19時までに退勤できている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○働き方改革と職員一人一人の努力や工夫により、おおむね規定時間内に仕事を終えて帰宅できた。</li> <li>●年間計画をとおして、各自が仕事内容と時期の確認や見通しをもって取り組めるようにする。</li> </ul>

【令和7年度】  
 <安全・安心>

取組目標	達成方法 (取組手段)	成果目標
生命の尊さや人とのつながりを大切にし、一人一人の良さを受け入れ、互いを思いやる心の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の命を第一に考え、一人一人の気持ちや願いを受け止める支援の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営計画に基づき、生徒の命が守られていると答える教職員や保護者 (AB100%)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権感覚を高め、声を掛けやすい雰囲気と、いじめや教職員の不祥事を見逃さない体制づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>信頼できる教職員に向けて、自身の行動を振り返ることができた教職員 (AB100%)</li> <li>お互いの良さに気付き、認め合い協力し合うことができた生徒 (AB80%)</li> </ul>
命のつながりを実感する食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康で丈夫な体をつくる食事や運動、生活習慣等保健指導の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭と情報共有し、生徒の健康な体づくりに取り組んだ教職員及び保護者 (AB100%)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の産物や生産者、食材の特長と栄養等6つの食育の視点を意識した食育の実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食と各教科等の関連を意識した指導ができた教職員 (AB90%)</li> </ul>
児童生徒の命を守る安全教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>実効性の高い訓練方法を探るとともに、緊急時において、主体的に行動できる実践力の育成</li> <li>ヒヤリハットの迅速な報告と共有及び今後にかす取組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急時の対応や防犯防災訓練をとおして、自分の身の守り方を学んだ生徒、教職員 (AB80%)</li> </ul>

<専門性>

取組目標	達成方法 (取組手段)	成果目標
主体的・協働的・深い学びによって、資質・	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人1授業研によるお互いに学び合う校内研修の工夫と、授業力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小グループでの意見交換をとおして生徒の思考を見取り、授業づくりに生かした教員 (AB90%)</li> </ul>

能力を育成する授業実践	・学習指導要領、個別の指導計画を踏まえた各教科等の授業実践及び授業改善	・ラーニングマップ等のツールを活用した授業作りを行い、授業実践と授業改善を行った教員 (AB85%)
特別支援教育の専門性の向上	・生徒の実態や障害特性に応じた指導のための校内研修の充実	・障害の特性に応じた支援や学習指導要領に基づく研修ができた教員 (AB90%)
	・PCやタブレット活用による主体的学びとICT教育の推進	・PCやタブレット等の活用により、授業準備の効率化や学習の定着に効果を得た教員 (AB85%)

<連携>

取組目標	達成方法 (取組手段)	成果目標
キャリア教育の視点で小中学部、高等部のつながりと、児童生徒の願いや夢を大切にしたい進路指導の充実	・個別の教育支援計画を基に、生徒の実態と将来を見据えた指導の充実	・生徒や保護者とともに目標の共有と実現に向けて指導した教員 (AB80%)
	・生徒の願いや夢を叶えるための地域社会の幅広い情報や、進路情報の提供の充実	・生徒に応じた適切な情報提供や、進路指導ができたと答える教員及び保護者 (AB80%)
地域住民との協働を推進し、地域と共に歩む学校づくり	・生徒及び教職員が地域に貢献し、地域で活躍できる場や環境の設定	・適切な学習を計画し、地域に貢献できたと感じる教職員 (AB80%) ・地域に情報発信できた教職員 (AB80%)
	・地域の自然や歴史、産物等に触れ、地域の良さを感じる地域活動の充実	・地域の資源や人材を活用した学習活動をとおして、生徒が意欲的に学んだと感じる教職員及び保護者 (AB80%)

<チーム学校>

取組目標	達成方法 (取組手段)	成果目標
特別支援学校のセンター的機能の充実及び関係機関との連携の強化	・支援要請に対し、迅速且つ適切な相談と継続した支援の実施	・センター的機能による成果の整理及び検証 (毎学期)
	・外部関係諸機関との連携と、迅速で丁寧につなぐ支援体制づくり	・学校内外の情報共有と、支援会議やケース会議等での案件の整理及び成果の検証 (毎学期)
教職員一人一人が責任をもった業務遂行と、やりがいを感じる働き方の推進	・教職員一人一人が、業務に責任をもち、学部や学校経営への参画の意識の醸成	・キャリアステージと自己評価シートに基づき、自身の役割を理解して分掌や学年の運営等携わった教職員 (AB80%)
	・学部及び分掌の業務内容の精選と、教職員一人一人のタイムマネジメント等働き方の意識改革	・計画的な業務遂行のために努力し、働き方を改善できた教職員 (AB70%)

4 監査対象期間における特色ある取組

【令和6年度】

取組概要	成果及び課題
生徒が安全で安心して生活できる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松崎高校と合同で避難訓練を実施し、教職員の役割を確認できた。</li> <li>・様々な場面を想定し訓練を行ったことで、生徒自身が身を守る方法を学ぶことができた。</li> <li>・抜き打ちの訓練でも、生徒が落ち着いて行動できた。</li> </ul>
学習指導要領の「育成を目指す資質・能力」に基づく一人一人の「生きる力」を育成する授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業科の授業をとおして研修に取り組んだ。各学年1回の研究授業を通して、思考の流れを踏まえながら授業づくりをすることができた。</li> <li>・生徒の実態や思考の流れに沿った授業づくりを行うために、きめの細かい研修を行うことができた。</li> <li>・実態把握が不十分な授業も見られた。</li> </ul>
「共生・共育」の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松崎高校との行事や授業などの交流及び共同学習により共生・共育に取り組んだ。</li> <li>・松崎高校との実りある交流及び共同学習のためお互いの目標を明確にし、事前・事後の打ち合わせを行った</li> <li>・対面式、双獅祭（文化祭）、体育祭、マラソン大会、球技大会などの行事を合同で行った。</li> <li>・生徒会活動やアボちゃんサポーターなどで、協働活動を行った。</li> <li>・交流ごとに目的や意義を松崎高校と確認し合えるようにしたい。</li> </ul>
外部人材の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科等指導における専門家として、松崎高校の美術教員や外部講師による授業を行った。また、指導内容のアドバイスを受けた。</li> <li>・書道や美術の部活動において、地域の指導者を活用して、専門的な指導を受けることができた。</li> <li>・防災や保健、地域学習（桜葉）、葉学講座、交通安全教室、進路学習、陶芸・農業の専門家の指導、スポーツ指導、WAZAチャレンジなど様々な外部人材を活用することができた。</li> <li>・生徒の実態に合わせた支援など、教職員との協働体制が今後も求められる。</li> </ul>
地域とつながる教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域貢献活動などで外部の方と関わることをとおして、分校理解や生徒理解につながった。</li> <li>・生徒の個性を生かし多様な人々との協働により、「共生社会の実現」に向けた取組が求められる。</li> <li>・「総合的な探究の時間」をとおして地域に出て学ぶ機会を設け、学校のある地域や生徒が暮らす地域の理解を進めた。</li> </ul>

【令和7年度】

取組概要	成果と課題
生徒が安全で安心して生活できる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松崎高校と合同の防災訓練を実施する。</li> <li>・外部講師を招き、体験的防災学習や講座を実施する。</li> <li>・保護者や地域と共に考える訓練を実施する。</li> <li>・人権チェックシート等を活用し、人権感覚の向上を図る。</li> </ul>

<p>学習指導要領の「育成を目指す資質・能力」に基づく一人一人の「生きる力」を育成する授業の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個別の指導計画やラーニングマップ等を活用し、適切な生徒の実態把握に取り組む。</li> <li>・ 個別最適な学びや協働的な学びの視点での授業改善や適切な学習評価に取り組む。</li> <li>・ 「自己理解を深め、一人一人の良さが輝く授業づくり」をテーマに取り組む。</li> </ul>
<p>「共生・共育」の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 松崎高校との行事や授業等の交流及び共同学習による共生・共育の取組を充実させる。</li> <li>・ 行事を進めるにあたっては、松崎高校と互いの目標を明確にした事前事後の打ち合わせを実施し、活動の充実を図る。</li> <li>・ 対面式、双獅祭（文化祭）、体育祭、マラソン大会、球技大会などの行事を合同開催する。</li> <li>・ 日常的な授業交流を計画する。</li> <li>・ 生徒会活動やアボちゃんサポーターなどの協働活動を実施する。</li> </ul>
<p>外部人材の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科等指導における専門家を活用する。（松崎高校教諭他）</li> <li>・ 部活動における地域の指導者を活用する。（書道、美術他）</li> <li>・ 防災や保健、地域学習（桜葉）、薬学講座、交通安全教室、進路学習、陶芸・農業の専門家の指導、スポーツ指導などを活用する。</li> <li>・ 生徒の実態に合わせた支援など教職員との協働体制を整える。</li> </ul>
<p>地域とつながる教育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「共生社会の実現」に向けた取組を図る。</li> <li>・ 生徒の個性を生かし、多様な人々との協働を促す取組を図る。</li> <li>・ 「総合的な探究の時間」をとおして、地域について学び、理解を深める。</li> <li>・ 地域との関わりの中で、特別支援教育や分校への理解を広げる。</li> </ul>

5 教職員について

(1) 令和6年度異動状況

〈伊豆松崎分校〉

(単位:人)

職名 区分	本務職員							会計年度任用職員						合計	
	教育職員				行政職員			本務計	教諭(任)	教諭(臨)	養護教諭(任)	養護教諭(臨)	非常勤労務職員		小計
	副校長	教頭	教諭	小計	主任	主事	小計								
転出者		1	2	3			0	3		1				1	4
退職者			1	1			0	1						0	1
転入者		1	5	6			0	6						0	6
新任者				0			0	0						0	0
再任用(新任)				0			0	0						0	0
差引増減	0	0	2	2	0	0	0	2	0	△1	0	0	0	△1	1

(2) 現員数

(令和7年8月31日現在) (単位:人)

職名 区分	本務職員						会計年度任用職員				合計
	教育職員			行政職員			教諭(臨)	養護教諭(任)	非常勤労務職員	小計	
	教頭	教諭	小計	主事	小計	本務計					
男	1	3	4		0	4				0	4
女		7	7	1	1	8	1	1	1	3	11
計	1	10	11	1	1	12	1	1	1	3	15

(3) 健康管理について

【令和6年度】

全ての職員が生活習慣病健診等、指定された健康診断を受診し、再検査受診率も毎年100%である。

職員の健康講座を年2回開催し、8月と12月に外部講師を招いて、肩こり・腰痛予防体操、ハンドケア等、体調や心身のバランスの整え方について学んだ。

毎週水曜日を定時退勤日とし、管理職が率先して帰りやすい雰囲気づくりを行い、各自のワーク・ライフバランスの意識の向上を図った。

日常的には、職員安全衛生委員会を年間とおして行い、教職員の健康不安など状況に合わせて、必要に応じた健康情報の啓発、メンタルヘルスケアに継続して取り組んだ。

【令和7年度】

全ての教職員が結核検診及び生活習慣病健診、指定年齢健診、人間ドックのいずれかを受診するよう健康診断を実施し、再検査や精密検査の職員には進んで受診をするよう呼びかけ、再検査受診率100%を目指している。

職員の健康講座を年2回開催し、夏は呼吸法について、冬は発酵と酵素について学び、職員自身の体の不調に焦点をあて、生活を見つめ直す内容の講座を計画している。毎週水曜日を定時退勤日とし、管理職が率先して帰りやすい雰囲気づくりを行い、各自のワーク・ライフバランスの意識の向上を図っている。

日常的には、職員安全衛生委員会を年間とおして行っており、学校環境を整え、教職員の健康不安などを聞きながら、教職員に沿った健康情報の啓発、メンタルヘルスケアを行っている。また必要に応じて健康管理医と相談し、職員の健康管理を行っている。

(4) 教職員の研修について

【令和6年度】

ア 研修目標

研修テーマに基づいた授業研究（授業公開）を実施し、授業検討、評価、改善を行うことで教職員の専門性や授業力の向上を図る。

イ 研修テーマ

「自己理解を深め、一人一人の良さが輝く授業づくり」

ウ 研修内容

研修内容	成果と課題
全体研修 (グループ研修)	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度の研修テーマや重点、研修の進め方などを職員間で共通理解し、視点を絞って話し合うことで、授業改善のための課題が明確になり、話し合いも活発に行われた。</li> <li>授業研究の際、事前・事後研修で小グループに分かれ、授業検討や振り返り、評価を行った。グループ研修での内容は、全体で共有し、指導の方向性をそろえることで、生徒自身の目標の明確化につながった。</li> <li>年度末、今年度の研修のまとめの共有と次年度に向けての取組を検討することで、来年度に向け教員一人一人が研修の目的を理解し主体的に考える姿が見られた。</li> </ul>
授業研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>その日の授業で取り組むことを明確にし、見通しをもちやすくしたことが、生徒にとって分かりやすく評価しやすい目標設定につながり、主体的な取り組みを引き出すことができた。</li> <li>生徒の実態把握が不十分な授業も見られた。来年度は、生徒の適切な実態把握の方法等について研修に取り組んでいきたい。</li> </ul>

【令和7年度】

ア 研修目標

学校教育目標の実現を目指し、研修テーマに基づいた授業研究、実践、評価、改善を行うことで、教職員の専門性や授業力の向上を図る。

イ 研修主題と研修テーマ

研修主題「自己理解を深め、一人一人の良さが輝く授業づくり」

研修テーマ「実態把握を充実させ、生徒が思考する姿を想定した国語・数学の授業実践と授業改善」

ウ 研修内容

研修内容	成果と課題
全体研修 (グループ研修)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の研修テーマや研修の進め方等を職員間で共通理解する。</li> <li>・授業研究の際、事前・事後研修で小グループに分かれ、授業検討や振り返り、評価を行う。グループ研修での内容は、全体で共有する。</li> <li>・授業研究ごとに全体で成果と課題のまとめを共有する。</li> <li>・年度末に今年度の研修のまとめの共有と次年度に向けての取組を検討する。</li> </ul>
授業研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科と数学科を窓口として、一人一授業を実施し、全員が授業を公開する。</li> <li>・個別最適な学び、協働的な学びの視点に立って授業検討を行う。</li> <li>・助言者を招き、多面的な視点から校内研修(研修の取組、授業)について指導助言をいただき、授業改善に生かす。</li> <li>・授業研究で得た成果や課題、改善策等を、日々の授業に生かす。</li> </ul>

6 防災対策について

【令和6年度】

ア 指導目標

- ・災害時における緊急体制の構築と災害に備えての環境づくりに努める。

イ 取組内容

- ・防災訓練の計画的な実施による避難方法の確立
- ・危機管理マニュアルでの確認を全職員で実施
- ・松崎高校との合同の避難訓練や防犯訓練の実施
- ・実践的な研修や訓練によるマニュアルの見直し
- ・生徒が居住する地域の避難場所を親子で把握
- ・防災学習による避難所生活の実践
- ・地域防災訓練の参加啓発

ウ 防災訓練等実施状況

実施日	実施内容
4月18日	地震津波訓練
4月23日	地震津波訓練(松崎高校との合同訓練)
4月25日	防災学習(災害時シュミレーション)
4月25日	引き渡し訓練(津波警報発令を想定した訓練)
6月27日	土砂災害想定避難訓練(松崎高校との合同訓練)
8月29日	防災学習(緊急時救急対応)
9月11日	地震津波訓練(生徒告知無し)
11月12日	火災避難訓練(松崎高校との合同訓練)
12月4日	防災学習(避難所生活体験)
2月20日	地震津波訓練(生徒・教員告知無し)

【令和7年度】

ア 指導目標

- ・災害時における緊急体制の構築と災害に備えての環境づくりに努める。

イ 取組内容

- ・防災訓練の計画的な実施による避難方法の確立
- ・危機管理マニュアルでの確認を全職員で実施
- ・松崎高校との合同の避難訓練や防犯訓練の実施
- ・実践的な研修や訓練によるマニュアルの見直し
- ・生徒が居住する地域の避難場所を親子で把握

・地域防災訓練の参加啓発

ウ 防災訓練等実施状況

実施日	実施内容
4月15日	地震津波訓練
4月22日	地震津波訓練(松崎高校との合同訓練)
5月27日	防災学習(災害時シュミレーション) ※親子学習会
5月27日 28日	引き渡し訓練(津波警報発令を想定した訓練)
6月12日	土砂災害想定避難訓練(松崎高校との合同訓練)
7月23日	防災研修(IDEA)
9月	地震津波訓練(生徒告知無し)
11月	火災避難訓練(松崎高校との合同訓練)
12月	防災学習(避難所生活体験)
1月	地震津波訓練(生徒・教員告知無し)

7 学校開放について

【令和6年度】

学校施設開放 実績なし

【令和7年度】

学校施設開放 実績なし

事務執行の根拠法令調

項 目	根 拠 法 令
<p>学校教育に関する こと</p>	<p>教育基本法（第1条、第2条、第4条、第6条、第9条）                      学校教育法（第1条、第2条、第3条、第72条、第73条、第74条、第76条、                      第77条）                      学校教育法施行規則                      学校給食法（第1条、第2条、第3条、第4条）                      学校保健安全法（第5条）                      特別支援学校の幼稚部及び高等部における学校給食に関する法律（第3条）                      静岡県立学校設置条例                      静岡県立特別指導委員会規則                      静岡県立特別支援学校学則                      特別支援学校小学部・中学部学習指導要領                      特別支援学校高等部学習指導要領</p>
<p>学校の管理・運営 に関すること</p>	<p>学校教育法（第76条、第137条）                      地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条）                      静岡県立学校管理規則                      教育公務員特例法（第21条、第22条）                      学校保健安全法（第7条、第8条、第9条、第15条、第27条）                      静岡県立学校職員安全衛生管理規程                      静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱                      学校図書館法（第3条、第4条）                      静岡県立学校処務規程                      特別支援学校への就学奨励に関する法律（第1条、第2条、第3条）                      特別支援学校への就学奨励に関する法律施行令                      特別支援学校への就学奨励に関する法律施行規則                      要保護児童生徒援助費補助金及び特別支援教育就学奨励費補助金交付要綱</p>

## 学校施設の概要

### 1 面積及び所有区分

#### (1) 本校

(令和7年8月31日現在)

区 分	面 積 m <sup>2</sup>	所 有 内 訳					摘 要
		県 有 m <sup>2</sup>	国 有 m <sup>2</sup>	市町村有 m <sup>2</sup>	後援会有 m <sup>2</sup>	民 有 m <sup>2</sup>	
学 校 敷 地	10,003.37	10,003.37					
内 訳	校 舎 敷 地	7,103.37	7,103.37				
	運 動 場 敷 地	2,900.00	2,900.00				
	その他の敷地						
校 舎	建 2,554.29	2,554.29					
	延 7,271.20	7,271.20					
体 育 館	建 573.99	573.99					
	延 550.00	550.00					
その他の建物							

#### (2) 伊豆下田分校

(令和7年8月31日現在)

区 分	面 積 m <sup>2</sup>	所 有 内 訳					摘 要
		県 有 m <sup>2</sup>	国 有 m <sup>2</sup>	市町村有 m <sup>2</sup>	後援会有 m <sup>2</sup>	民 有 m <sup>2</sup>	
学 校 敷 地	22.78			22.78			
内 訳	校 舎 敷 地	22.78		22.78			
	運 動 場 敷 地						
	その他の敷地						
校 舎	建 548.47	12.82		535.65			下田市立下田小学校校舎一部借受
	延 574.11	38.46		535.65			
体 育 館							
その他の建物							

(3) 伊豆松崎分校

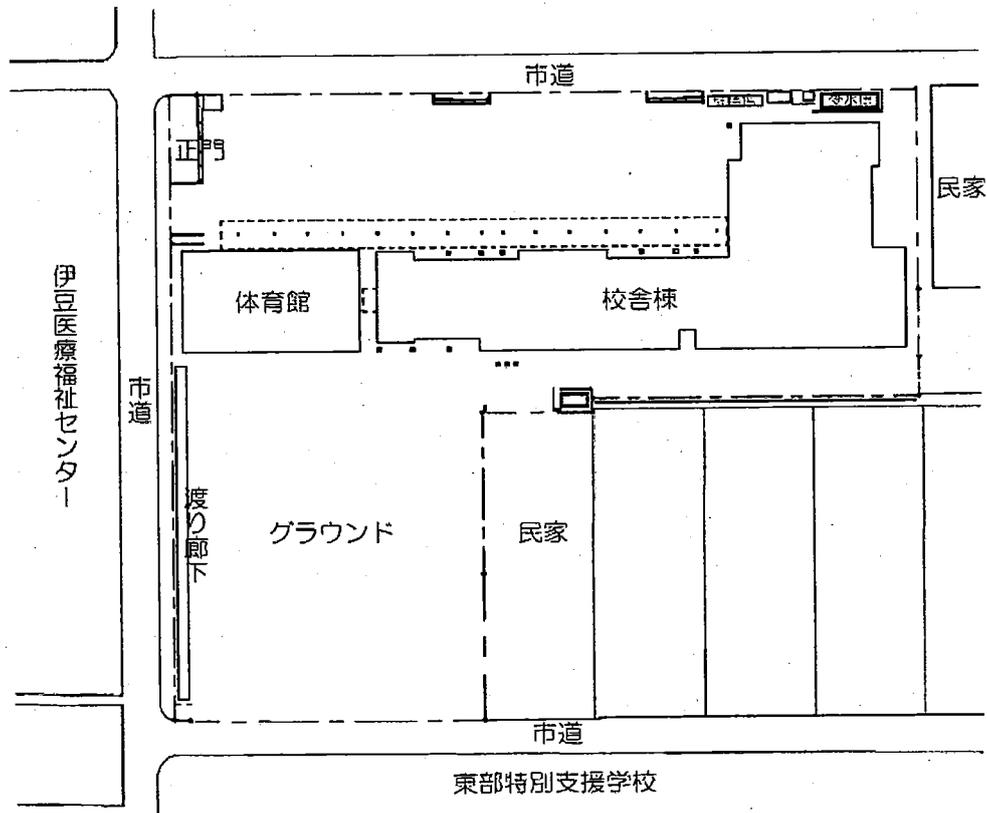
(令和7年8月31日現在)

区 分	面 積 m <sup>2</sup>	所 有 内 訳					摘 要
		県 有 m <sup>2</sup>	国 有 m <sup>2</sup>	市町村有 m <sup>2</sup>	後援会有 m <sup>2</sup>	民 有 m <sup>2</sup>	
学 校 敷 地	436.97	436.97					
内 訳	校 舎 敷 地	436.97	436.97				作業学習用耕作地、 倉庫設置等
	運 動 場 敷 地						
	そ の 他 の 敷 地						
校 舎	建 518.11 延 518.11	518.11 518.11					松崎高校校舎使用 承認
体 育 館							
そ の 他 の 建 物							

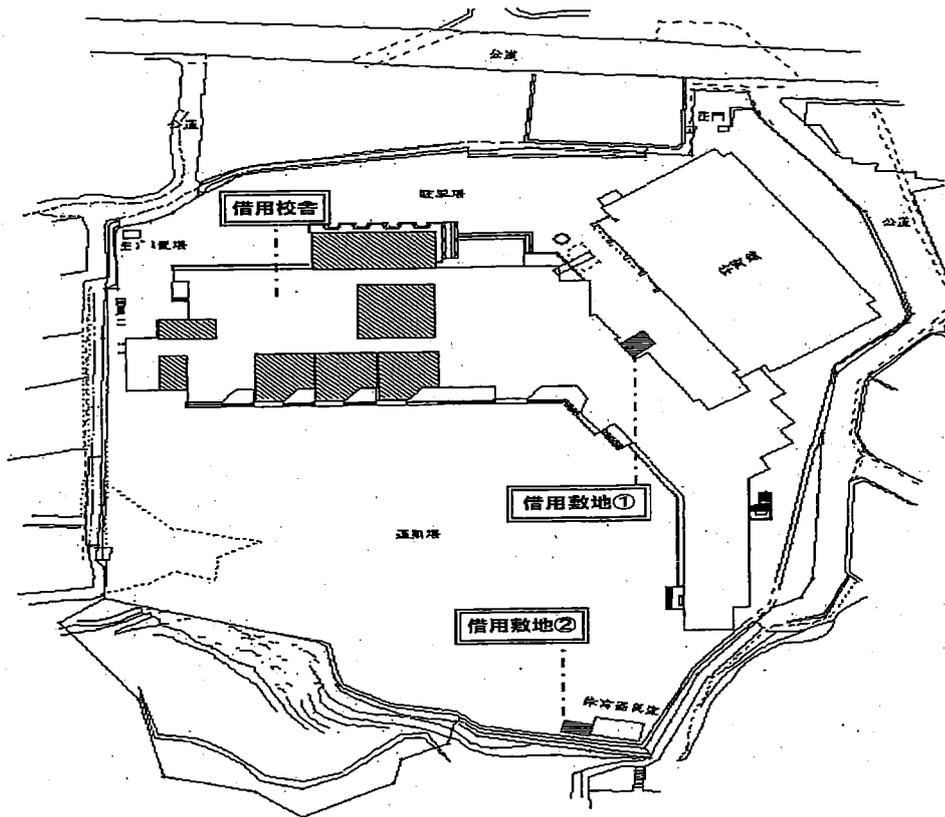
2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図

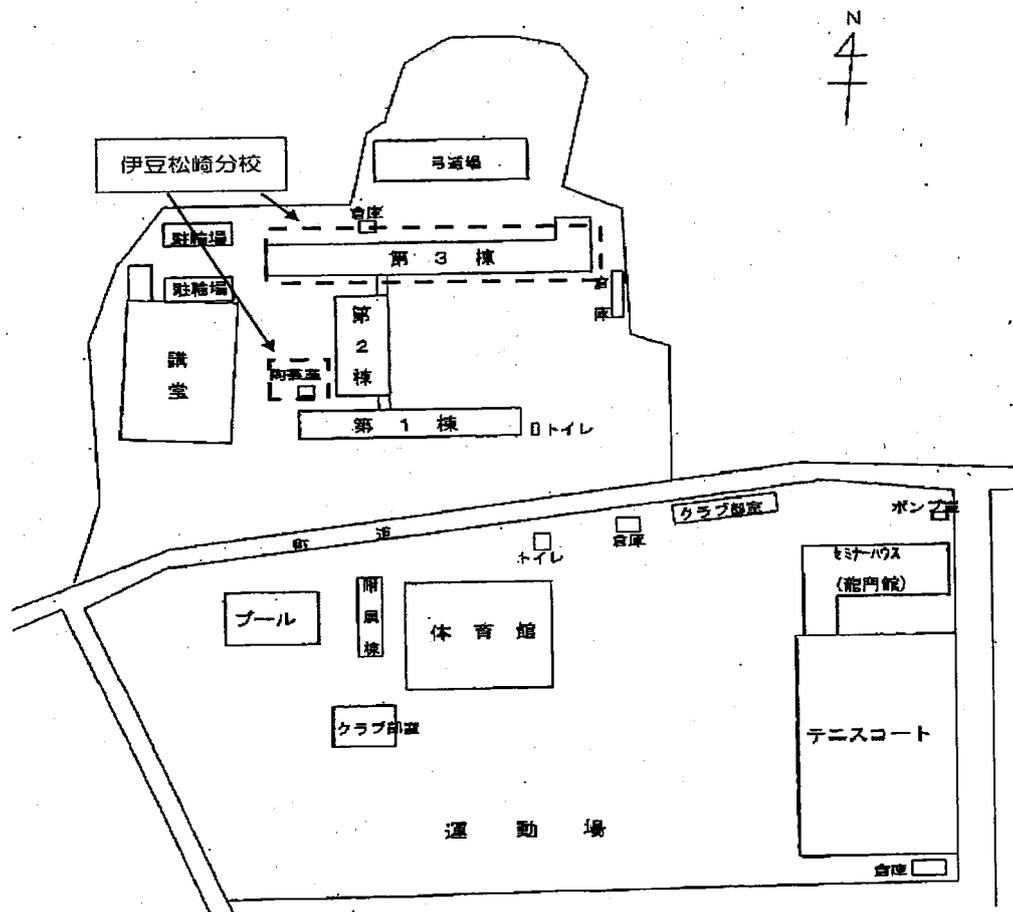
〈本校〉



〈伊豆下田分校〉



〈伊豆松崎分校〉



(2) 学校施設の規模等 (法面・演習林等を除く)

区分		学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当 校	本校	10,003.37m <sup>2</sup>	7,271.20m <sup>2</sup>	2,900.00m <sup>2</sup>
	伊豆下田分校	22.78m <sup>2</sup>	574.11m <sup>2</sup>	0.00m <sup>2</sup>
	伊豆松崎分校	436.97m <sup>2</sup>	518.11m <sup>2</sup>	0.00m <sup>2</sup>
県平均		18,814.78m <sup>2</sup>	6,361.36m <sup>2</sup>	5,244.39m <sup>2</sup>

在籍生徒調

(令和7年8月31日現在)

(本校)

学年	区分	学科別	小学部				中学部				高等部				計			
			定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計
1年	入学者		-	13	3	16	-	6	10	16		18	13	31	-	37	26	63
	増加			0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	減少			0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	現在			13	3	16		6	10	16		18	13	31		37	26	63
2年	入学者		-	10	6	16	-	12	1	13	21	10	9	19	-	32	16	48
	増加			1	0	1		0	0	0		0	0	0		1	0	1
	減少			0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	2年時当初			11	6	17		12	1	13		10	9	19		33	16	49
	増加			0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	減少			0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	現在			11	6	17		12	1	13		10	9	19		33	16	49
3年	入学者		-	10	5	15	-	11	4	15	21	13	5	18	-	34	14	48
	増加			0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	減少			0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	2年時当初			10	5	15		11	4	15		13	5	18		34	14	48
	増加			0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	減少			1	1	2		0	0	0		0	1	1		1	2	3
	3年時当初			9	4	13		11	4	15		13	4	17		33	12	45
	増加			0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
減少			0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0	
現在			9	4	13		11	4	15		13	4	17		33	12	45	
4年	入学者		-	8	8	16									-			
	増加			1	0	1												
	減少			0	0	0												
	2年時当初			9	8	17										9	8	17
	増加			1	0	1										1	0	1
	減少			0	0	0										0	0	0
	3年時当初			10	8	18										10	8	18
	増加			0	0	0										0	0	0
	減少			0	0	0										0	0	0
	4年時当初			10	8	18										10	8	18
増加			0	0	0										0	0	0	
減少			0	0	0										0	0	0	
現在			10	8	18										10	8	18	
5年	入学者		-	11	5	16									-			
	増加			0	0	0												
	減少			0	0	0												
	2年時当初			11	5	16												
	増加			0	1	1												
	減少			2	0	2												
	3年時当初			9	6	15										9	6	15
	増加			0	1	1										0	1	1
	減少			1	0	1										1	0	1
	4年時当初			8	7	15										8	7	15
	増加			0	0	0										0	0	0
減少			0	0	0										0	0	0	
5年時当初			8	7	15										8	7	15	
増加			0	0	0										0	0	0	
減少			0	1	1										0	1	1	
現在			8	6	14										8	6	14	
6年	入学者		-												-			
	増加																	
	減少																	
	2年時当初			6	3	9												
	増加			1	0	1												
	減少			1	0	1												
	3年時当初			6	3	9												
	増加			0	0	0												
	減少			0	0	0												
	4年時当初			6	3	9										6	3	9
	増加			1	0	1										1	0	1
	減少			1	0	1										1	0	1
	5年時当初			6	3	9										6	3	9
増加			0	0	0										0	0	0	
減少			0	0	0										0	0	0	
6年時当初			6	3	9										6	3	9	
増加			0	0	0										0	0	0	
減少			0	0	0										0	0	0	
現在			6	3	9										6	3	9	
合計				57	30	87		29	15	44		41	26	67		127	71	198

□□□□

在籍生徒調

(伊豆下田分校)

(令和7年8月31日現在)

学年	学科別 区分	小学部				中学部				計			
		定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計
1年	入学者	-	0	1	1	-	2	1	3	-	2	2	4
	増加		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	減少		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	現在		0	1	1		2	1	3		2	2	4
2年	入学者	-	0	0	0	-	0	1	1	-	0	1	1
	増加		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	減少		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	2年時当初		0	0	0		0	1	1		0	1	1
	増加		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	減少		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	現在		0	0	0		0	1	1		0	1	1
3年	入学者	-	2	0	2	-	2	2	4	-	4	2	6
	増加		0	0	0		1	0	1		1	0	1
	減少		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	2年時当初		2	0	2		3	2	5		5	2	7
	増加		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	減少		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	3年時当初		2	0	2		3	2	5		5	2	7
	増加		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	減少		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	現在		2	0	2		3	2	5		5	2	7
4年	入学者	-	2	0	2					-	2	0	2
	増加		0	0	0						0	0	0
	減少		0	0	0						0	0	0
	2年時当初		2	0	2						2	0	2
	増加		0	0	0						0	0	0
	減少		0	0	0						0	0	0
	3年時当初		2	0	2						2	0	2
	増加		0	0	0						0	0	0
	減少		0	0	0						0	0	0
	4年時当初		2	0	2						2	0	2
	増加		0	0	0						0	0	0
減少		0	0	0						0	0	0	
現在		2	0	2						2	0	2	
5年	入学者	-	2	0	2					-	2	0	2
	増加		0	0	0						0	0	0
	減少		0	0	0						0	0	0
	2年時当初		2	0	2						2	0	2
	増加		0	0	0						0	0	0
	減少		1	0	1						1	0	1
	3年時当初		1	0	1						1	0	1
	増加		0	0	0						0	0	0
	減少		0	0	0						0	0	0
	4年時当初		1	0	1						1	0	1
	増加		0	0	0						0	0	0
	減少		0	0	0						0	0	0
	5年時当初		1	0	1						1	0	1
増加		0	0	0						0	0	0	
減少		0	0	0						0	0	0	
現在		1	0	1						1	0	1	
6年	入学者	-								-			
	増加												
	減少												
	2年時当初		1	0	1						1	0	1
	増加		1	0	1						1	0	1
	減少		0	0	0						0	0	0
	3年時当初		2	0	2						2	0	2
	増加		0	0	0						0	0	0
	減少		0	0	0						0	0	0
	4年時当初		2	0	2						2	0	2
	増加		0	0	0						0	0	0
	減少		0	0	0						0	0	0
	5年時当初		2	0	2						2	0	2
	増加		0	0	0						0	0	0
	減少		0	0	0						0	0	0
6年時当初		2	0	2						2	0	2	
増加		0	0	0						0	0	0	
減少		0	0	0						0	0	0	
現在		2	0	2						2	0	2	
合計			7	1	8		5	4	9		12	5	17

在 籍 生 徒 調  
(伊豆松崎分校) (令和7年8月31日現在)

学年	学科別 区分		高 等 部				計			
			定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計
1年	入 学 者		12	1	2	3	-	1	2	3
	増加 減少	増加		0	0	0		0	0	0
		減少		0	0	0		0	0	0
現 在 在			1	2	3		1	2	3	
2年	入 学 者		12	6	0	6	-	6	0	6
	増加 減少	増加		0	0	0		0	0	0
		減少		1	0	1		1	0	1
	2年時当初			5	0	5		5	0	5
	増加 減少	増加		0	0	0		0	0	0
		減少		0	0	0		0	0	0
現 在 在			5	0	5		5	0	5	
3年	入 学 者		9	4	0	4	-	4	0	4
	増加 減少	増加		0	0	0		0	0	0
		減少		0	0	0		0	0	0
	2年時当初			4	0	4		4	0	4
	増加 減少	増加		0	0	0		0	0	0
		減少		0	0	0		0	0	0
	3年時当初			4	0	4		4	0	4
	増加 減少	増加		0	0	0		0	0	0
減少			0	0	0		0	0	0	
現 在 在			4	0	4		4	0	4	
合 計			33	10	2	12		10	2	12

□□□□

## 入学志願者及び入学者数調

(本校)

区 分		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
学 科 別		高等部	高等部	高等部	高等部
生徒定員 (A)		21	21	21	39
募集者数 (B)		21	21	21	39
志願者数	男	14	13	10	18
	女	5	6	9	13
	計 (C)	19	19	19	31
受検者数	男	14	13	10	18
	女	5	6	9	13
	計 (D)	19	19	19	31
合格者数	男	14	13	10	18
	女	5	6	9	13
	計 (E)	19	19	19	31
志願倍率 (C) / (B)		0.90	0.90	0.90	0.79
受検倍率 (D) / (B)		0.90	0.90	0.90	0.79
入学者数	男	14	13	10	18
	女	5	5	9	13
	計 (F)	19	18	19	31
充足率 (F) / (A)		0.90	0.85	0.90	0.79

## (伊豆松崎分校)

区 分		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
学 科 別		高等部	高等部	高等部	高等部
生徒定員 (A)		9	9	12	12
募集者数 (B)		9	9	12	12
志願者数	男	3	4	6	1
	女	3	0	0	2
	計 (C)	6	4	6	3
受検者数	男	3	4	6	1
	女	3	0	0	2
	計 (D)	6	4	6	3
合格者数	男	3	4	6	1
	女	3	0	0	2
	計 (E)	6	4	6	3
志願倍率 (C) / (B)		0.67	0.44	0.5	0.25
受検倍率 (D) / (B)		0.67	0.44	0.5	0.25
入学者数	男	3	4	6	1
	女	3	0	0	2
	計 (F)	6	4	6	3
充足率 (F) / (A)		0.67	0.44	0.5	0.25

卒業生の動向調

区 分		本校			伊豆下田 分校	伊豆松崎分校		合 計
		中学部	高 等 部		中学部	高 等 部		
			本 科	専攻科		本 科	専攻科	
高等学校 (本科)	全日制							
	定時制							
	通信制							
特別支援学校高等部		20			1			21
その他高等学校等								
大学等	大学(学部)							
	短期大学(本科)							
	大学・短大の通信 教育学部等							
	その他大学等							
特別支援学校高等部専攻科								
専修学校(専門課程)								
専修学校(一般課程)・各種学 校								
公共職業能力開発施設等			1			1		2
就 職			3			2		5
上 記 以 外 ※		1	13			4		18
不詳・死亡								
計 (卒業生総数)		21	17		1	7		46

(再掲) 「上記以外※」のうち、社会福祉施設等入所、通所者

区 分		本校			伊豆下田 分校	伊豆松崎分校		合 計
		中学部	高 等 部		中学部	高 等 部		
			本 科	専攻科		本 科	専攻科	
児童福祉施設								
障害者支援施設			13			4		17
(うち就労系支援事 業利用者)		0	(6)	0	0	(3)	0	(9)
医療機関								
計			13			4		17

□□□□

## 生徒の状況

(本校)

### 1 生徒の出身地域及び通学方法

#### (1) 出身地

(令和7年8月31日現在) (単位:人)

市町名	三島市	函南町	伊豆の国市	伊豆市	沼津市	長泉町	熱海市	合計
児童生徒数	114	18	47	15	1	2	1	198
構成比%	57.6%	9%	23.8%	7.6%	0.5%	1%	0.5%	100.0%

#### (2) 通学方法

(令和7年8月31日現在) (単位:人)

区分	スクールバス	徒歩	自家用車	JR・私鉄	合計
児童生徒数	125	7	41	25	198
構成比%	63.2%	3.5%	20.7%	12.6%	100.0%

### 2 部(クラブ)の加入状況

(高等部)

(令和7年8月31日現在) (単位:人)

区分		ダンス部	運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数		1	1	1		
男子	1年	4	2	2	10	18
	2年	1	1	1	7	10
	3年	4	2	0	7	13
	計(A)	9	5	3	24	41
	構成比	21.9%	12.1%	7.4%	58.6%	100.0%
女子	1年	3	2	0	8	13
	2年	6	0	0	3	9
	3年	2	0	1	1	4
	計(B)	11	2	1	12	26
	構成比	42.3%	7.7%	3.8%	46.2%	100.0%
合計	(A+B)	20	7	4	36	67
	構成比	29.8%	10.5%	5.9%	53.8%	100.0%

※ボランティア部については全員加入

3 障害別児童生徒数

(令和7年8月31日現在) (単位:人)

区 分		1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	学級数
小学部	単一障害	<input type="checkbox"/>							
	重複障害	<input type="checkbox"/>							
	合計	<input type="checkbox"/>	87	<input type="checkbox"/>					
中学部	単一障害	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	/	/	/	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	重複障害	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	/	/	/	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	合計	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	/	/	/	44	<input type="checkbox"/>
高等部	単一障害	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	/	/	/	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	重複障害	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	/	/	/	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	合計	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	/	/	/	67	<input type="checkbox"/>

4 起因疾患別児童生徒数

(令和7年8月31日現在) (単位:人)

区 分	脳性疾患	染色体異常	広汎性発達障害	心臓疾患	聴覚障害	視覚障害	その他の知的障害	計
小学部	<input type="checkbox"/>							
中学部	<input type="checkbox"/>							
高等部	<input type="checkbox"/>							
計	<input type="checkbox"/>							

※□□□□

□□□□

## 生徒の状況

(伊豆下田分校)

### 1 生徒の出身地域及び通学方法

#### (1) 出身地

(令和7年8月31日現在) (単位:人)

市町名	下田市	伊東市	東伊豆町	南伊豆町	松崎町	西伊豆町	合計
児童生徒数	12	0	1	0	4	0	17
構成比%	70.6%	0%	5.9%	0%	23.5%	0%	100.0%

#### (2) 通学方法

(令和7年8月31日現在) (単位:人)

区分	スクールバス	路線バス	自家用車	合計
児童生徒数	10	0	7	17
構成比%	58.8%	0%	41.2%	100.0%

### 2 部(クラブ)の加入状況

(中学部) 該当なし

### 3 障害別児童生徒数

(伊豆下田分校)

(令和7年8月31日現在) (単位:人)

区分		1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	学級数
小学部	単一障害	<input type="checkbox"/>							
	重複障害	<input type="checkbox"/>							
	合計	<input type="checkbox"/>	8	<input type="checkbox"/>					
中学部	単一障害	<input type="checkbox"/>							
	重複障害	<input type="checkbox"/>							
	合計	<input type="checkbox"/>	9	<input type="checkbox"/>					

### 4 起因疾患別児童生徒数

(伊豆下田分校)

(令和7年8月31日現在) (単位:人)

区分	脳性疾患	染色体異常	自閉スペクトラム症	その他の知的障害	計
小学部	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	8
中学部	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	9
計	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	17

□□□□

## 生徒の状況

(伊豆松崎分校)

### 1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地 (令和7年8月31日現在) (単位:人)

市町名	松崎町	下田市	南伊豆町	西伊豆町	伊豆市	合計
児童生徒数	2	8	2	0	0	12
構成比%	16.7%	66.6%	16.7%	0.0%	0.0%	100%

(2) 通学方法 (令和7年8月31日現在) (単位:人)

区分	バス・徒歩 (自転車)	バス・自家用車	自家用車	徒歩	合計
児童生徒数	7	2	2	1	12
構成比%	58.3%	16.7%	16.7%	8.3%	100%

### 2 部(クラブ)の加入状況

(高等部) (令和7年8月31日現在) (単位:人)

区分		地域活動部 (運動部兼文化部)	未加入者	計
部(クラブ)数		1		1
男子	1年	0	1	1
	2年	3	2	5
	3年	3	1	4
	計(A)	6	4	10
	構成比	60.0%	40.0%	100.0%
女子	1年	0	2	2
	2年	0	0	0
	3年	0	0	0
	計(B)	0	2	2
	構成比	0.0%	100.0%	100.0%
合計	(A+B)	6	6	12
	構成比	50.0%	50.0%	100.0%

### 3 障害別児童生徒数

(高等部) (令和7年8月31日現在) (単位:人)

区分	1年	2年	3年	計	学級数
単一障害	<input type="checkbox"/>				
重複障害	<input type="checkbox"/>				
計	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	12	<input type="checkbox"/>

### 4 起因疾患別児童生徒数

(令和7年8月31日現在) (単位:人)

区分	脳性疾患	染色体異常	自閉スペクトラム症	その他の知的障害	計
高等部	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	12
計	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	12

## 特別支援学校における生産物売払調

(令和7年8月31日現在)

		主な生産品目	
本 年 度	<p>&lt;手芸品・工作物&gt; (本校) コーヒー脱臭剤、英字新聞ペーパーバッグ、ギフトセット、油吸い取り君、パンケース、コインケース、名刺入れ、コースター、カードケース、マルチケース、縁ボタン、縁マグネット、寄木ストラップ、寄木箸置き、スクエアトレイ</p> <p>&lt;農作物・園芸品&gt; (伊豆松崎) 花苗、玉ねぎ</p> <p>&lt;陶芸品&gt; (伊豆松崎) 小皿、小鉢、中鉢</p>		
	① 売払金額	83,050 円	② 前年度との差額 △216,500 円
前 年 度	<p>&lt;手芸品・工作物&gt; (本校) 寄木ストラップ、スクエアトレイ、寄木箸置き、名刺入れ、コースター、縁ボタン、縁マグネット、ティッシュケース、英字新聞ペーパーバッグ、香り袋、油取り袋、カップホルダー、パンケース、コインケース、カードケース、マスクケース、ネクタイホルダー、キーケース、ペーパーバッグ、ギフトセット、コーヒー脱臭剤</p> <p>&lt;農作物・園芸品&gt; (伊豆松崎) ビオラ、葉ニンニク、カブ、ジャガイモ、マリーゴールド、コマツナ</p> <p>&lt;陶芸品&gt; (伊豆松崎) 小皿、小鉢、中鉢</p>		
	① 売払金額	299,550 円	② 前年度との差額 △18,350 円

前々年度	<手芸品・工作物> (本校) コーヒースタンド、寄木ストラップ、カップホルダー、なぎの葉トレイ、スクエアトレイ、ペンケース、コインケース、名刺入れ、コースター、カードケース、マスクケース、縁ボタン、英字新聞ペーパーバッグ、香り袋、ネクタイホルダー、キーケース、ティッシュケース、油取り袋、脱臭剤、ギフトセット <農作物・園芸品> (松崎) メランポジウム、じゃがいも、きゅうり、花苗、ダイコン、ホウレンソウ、キャベツ <陶芸品> (松崎) 小皿、小鉢、中鉢		
	① 売払金額	281,200 円	②前年度との差額

□□□□

## 保管現金有高調

(令和7年度)

(令和7年8月31日現在)

現金保管者	区 分	金 額 (円)
静岡県立伊豆の国特別支援学校 校長	駐車料金等継続的資金前渡	3,170

□□□□

## 預 金 調

(令和7年8月31日現在)

金融機関名	預金種類	口座 番号	口座名義人	残高 (円)	摘 要
三島信用金庫 韮山支店	無利息型 普通預金	1199744	静岡県立伊豆の国特別支援学校 資金前渡者 松本仁美	0	給料及び資金 前渡金の受領
スルガ銀行 伊豆長岡支店	無利息型 普通預金	3688749	自振口 伊豆の国特別支援学校 資金前渡者 松本仁美	0	電気料等自動 振替
三島信用金庫 韮山支店	無利息型 普通預金	1199736	静岡県立伊豆の国特別支援学校 就学奨励費代理受領者 松本仁美	0	就学奨励費の 代理受領
残 高 合 計				0	

郵券等受払調

(令和7年8月31日現在)

(単位：枚、円)

(本校)

区分	種類	令和6年度						令和7年度						差引現在高	摘要	
		繰越		受入		払出		繰越		受入		払出				
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額			枚数
	レターバックプラス	2	1,040	0	0	2	1,040	0	0	0	0	0	0	0	0	文書 送 用
	110円券	0	0	4	440	4	440	0	0	0	0	0	0	0	0	
	84円券	0	0	21	1,764	21	1,764	0	0	0	0	0	0	0	0	
	26円券	0	0	11	286	11	286	0	0	0	0	0	0	0	0	
計			1,040		2,490		3,530		0		0		0		0	

郵券等受払調

(令和7年8月31日現在)

(単位：枚、円)

(伊豆下田分校)

区分	種類	令和6年度						令和7年度						差引現在高	摘要	
		繰越		受入		払出		繰越		受入		払出				
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額			枚数
	レターバック プラス520 (IB)	3	1,560	0	0	1	520	2	1,040	0	0	2	1,040	0	0	文書 送 用
	レターバック ライト430	0	0	0	0	0	0	0	0	10	4,300	1	430	9	3,870	
	レターバック ライト370 (IB)	17	6,290	0	0	13	4,810	4	1,480	0	0	4	1,480	0	0	
	270円券	0	0	10	2,700	8	2,160	2	540	10	2,700	8	2,160	4	1,080	
	210円券	12	2,520	5	1,050	17	3,570	0	0	0	0	0	0	0	0	
	180円券	0	0	20	3,600	3	540	17	3,060	0	0	11	1,980	6	1,080	
	120円券	17	2,040	10	1,200	27	3,240	0	0	0	0	0	0	0	0	
	110円券	0	0	70	7,700	44	4,840	26	2,860	50	5,500	49	5,390	27	2,970	
	84円券	23	1,932	50	4,200	73	6,132	0	0	0	0	0	0	0	0	
	26円券	0	0	18	468	18	468	0	0	0	0	0	0	0	0	
	10円券	38	380	90	900	94	940	34	340	50	500	73	730	11	110	
	1円券	5	5	5	5	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	
計			14,727		21,823		27,230		9,320		13,000		13,210		9,110	

郵券等受払調

(令和7年8月31日現在)

(単位：枚、円)

(伊豆松崎分校)

区分	種類	令和6年度						令和7年度						差引現在高	摘要	
		繰越		受入		払出		繰越		受入		払出				
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額			枚数
	往復はがき	0	0	2	340	1	170	1	170	0	0	0	0	1	170	文書 送 用
	レターバック	3	1,560	0	0	0	0	3	1,560	0	0	0	0	3	1,560	
	レターバック ライト	4	1,480	0	0	1	370	3	1,110	0	0	1	370	2	740	
	210円券	16	3,360	20	4,200	36	7,560	0	0	0	0	0	0	0	0	
	120円券	20	2,400	20	2,400	21	2,520	19	2,280	0	0	17	2,040	2	240	
	84円券	56	4,704	100	8,400	91	7,644	65	5,460	0	0	26	2,184	39	3,276	
	50円券	0	0	50	2,500	16	800	34	1,700	0	0	7	350	27	1,350	
	26円券	0	0	100	2,600	41	1,066	59	1,534	0	0	26	676	33	858	
	10円券	13	130	160	1,600	74	740	99	990	0	0	12	120	87	870	
	2円券	22	44	10	20	9	18	23	46	0	0	0	0	23	46	
計			13,678		22,060		20,888		14,850		0		5,740		9,110	

□□□□

材 料 品 受 払 調

(令和7年8月31日現在)

品名	区分	令和6年度						令和7年度						摘要		
		繰越		受入		払出		繰越		受入		払出			差引現在高	
		数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額		数量	金額
SPF		0	0円	0	0円	0	0円	0	0円	25	32,000円	25	32,000円	0	0円	本校
寄木パーツ		0	0円	5,000	23,900円	5,000	23,900円	0	0円	0	0円	0	0円	0	0円	本校
白土		0	0円	10	26,730円	10	26,730円	0	0円	0	0円	0	0円	0	0円	本校
白土 (伊豆松崎分校)		15	38,610円	10	26,730円	10	25,740円	15	39,600円	10	27,720円	3	7,722円	22	59,598円	伊豆松崎分校
計		15	38,610円	5,020	77,360円	5,020	76,370円	15	39,600円	35	59,720円	28	39,722円	22	59,598円	

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)		
					令和5年度	令和6年度	
						左のうち、令和5年度からの繰越額分	
(12) 委託料	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		81,375,514	
	一般	教育費	学校教育費	健康体育費		24,853,785	
計						106,229,299	
(14) 工事 請負費						0	
計						0	
(16) 公有財産 購入費						0	
計						0	
(17) 備品 購入費	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		439,230	
計						439,230	
(18) 負担金、 補助及 び交付金	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		3,373,810	
計						3,373,810	
(21) 補償、補填 及び賠償 金						0	
計						0	

□□□□

## 委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和7年度)

(令和7年8月31日現在)

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)	
						うち、6年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	27,118,124	0
	一般	教育費	学校教育費	健康体育費	8,273,650	0
計					35,391,774	0
(14) 工事請負費	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費	0	0
計					0	0
(16) 公有財産購入費					0	0
計					0	0
(17) 備品購入費	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	1,021,900	0
計					1,021,900	0
(18) 負担金、補助及び交付金	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	2,019,263	0
計					2,019,263	0
(21) 補償、補填及び賠償金					0	0
計					0	0

委託料に関する調

(令和6年度)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
			円	円	円	円						
1	給食調理業務	株式会社マルヨ	59,160,797	58,778,500	0	58,778,500	一般	6.3.1 ～ 8.7.31	6.5.31	2,026,750	学校給食調理業務	6 長期
									6.6.28	2,026,750		
									6.7.31	2,026,750		
									6.8.30	2,026,750		
									6.9.30	2,026,750		
									6.10.31	2,026,750		
									6.11.29	2,026,750		
									6.12.26	2,026,750		
									7.1.31	2,026,750		
									7.2.28	2,026,750		
									7.3.31	2,026,750		
									7.4.30	2,026,750		
2	スクールバス輸送業務	伊豆箱根バス株式会社営業部	212,210,460	203,388,460	0	203,388,460	一般	6.4.1 ～ 9.3.31	6.5.31	5,649,600	スクールバスの運行	6 長期
									6.6.28	5,649,600		
									6.7.31	5,649,600		
									6.8.30	5,649,600		
									6.9.30	5,649,600		
									6.10.31	5,649,600		
									6.11.29	5,649,600		
									6.12.26	5,649,600		
									7.1.31	5,649,600		
									7.2.28	5,649,600		
									7.3.31	5,649,600		
									7.4.30	5,649,600		
3	伊豆下田分校スクールバス輸送業務	株式会社東海バス下田営業所	47,200,340	36,665,178	0	36,665,178	一般	6.4.1 ～ 9.3.31	6.5.21	1,017,643	スクールバスの運行	6 長期
									6.6.17	1,018,501		
									6.7.16	1,018,501		
									6.8.16	1,018,501		
									6.9.17	1,018,501		
									6.10.15	1,018,501		
									6.11.19	1,018,501		
									6.12.17	1,018,501		
									7.1.17	1,018,501		
									7.2.17	1,018,501		
									7.3.18	1,018,501		
									7.4.15	1,018,501		
4	自動ドア保守管理業務	中日本オートドア株式会社	22,000	22,000	0	22,000	随契	6.4.1 ～ 7.3.31	6.10.29 11,000 7.3.31 11,000	自動ドアの保守及び点検	随契1号(少額)	
5	伊豆下田分校エレベーター保守管理業務	三菱電機ビルソリューションズ株式会社横浜支社西湘支店	369,600	369,600	0	369,600	随契	6.4.1 ～ 7.3.31	6.5.31	30,800	エレベーターの保守管理業務	随契1号(少額)
									6.6.28	30,800		
									6.7.31	30,800		
									6.8.30	30,800		
									6.9.30	30,800		
									6.10.31	30,800		
									6.11.29	30,800		
									6.12.26	30,800		
									7.1.31	30,800		
									7.2.28	30,800		
									7.3.31	30,800		
									7.4.30	30,800		
6	エレベーター保守管理業務	東芝エレベーター株式会社静岡支店	967,560	967,560	0	967,560	随契	6.4.1 ～ 7.3.31	6.5.31	80,630	エレベーターの保守管理業務	随契1号(少額)
									6.6.28	80,630		
									6.7.31	80,630		
									6.8.30	80,630		
									6.9.30	80,630		
									6.10.31	80,630		
									6.11.29	80,630		
									6.12.26	80,630		
									7.1.31	80,630		
									7.2.28	80,630		
									7.3.31	80,630		
									7.4.30	80,630		
7	防鼠防虫業務	株式会社三島美装	99,000	99,000	0	99,000	随契	6.4.12 ～ 7.3.31	6.10.31 42,900 7.4.30 56,100	厨房のゴミ、鼠等の駆除防除	随契1号(少額)	
8	厨房清掃業務	株式会社カンザイ	252,285	252,285	0	252,285	随契	6.7.19 ～ 7.3.31	6.10.25	99,000	厨房の清掃	随契1号(少額)
									7.1.31	77,000		
									7.4.28	76,285		

9	グリストラップ清掃及び産業廃棄物収集運搬業務	三友水処理株式会社	172,700	172,700	0	172,700	随契	6.8.16 ～ 7.3.31	6.9.30 7.1.31 7.4.28 小計	101,200 31,900 31,900 165,000	グリストラップの清掃及び産業廃棄物の収集運搬	随契1号(少額)
10	産業廃棄物(汚泥)処分業務	グリーンサービス株式会社	処分料(1kg当たり)@27.5	処分料(1kg当たり)@27.5	0	処分料(1kg当たり)@27.5	随契	6.8.16 ～ 7.3.31	6.9.30 7.1.31 7.4.28 小計	5,500 5,500 5,500 16,500	産業廃棄物の処分	随契1号(少額)単価契約
合計		10件								106,229,299		

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
参考1	警備業務	セコム株式会社	/	14,256,000	1,322,750	15,578,750	/	3.4.1 ～ 6.9.30	/	/	学校施設の機械警備	三島北高校
参考2	警備業務	セコム株式会社	/	19,965,000	0	19,965,000	/	6.10.1 ～ 11.9.30	/	/	学校施設の機械警備	三島北高校
参考3	消防用設備等保守点検業務	伊豆防災機器株式会社	/	8,156,104	0	8,156,104	/	6.4.1 ～ 7.3.31	/	/	消防用設備の保守点検	三島北高校
参考4	自家用電気工作物保安業務	株式会社静岡ケイテクノ	/	1,333,200	0	1,333,200	/	6.4.1 ～ 7.3.31	/	/	校内電気工作物の保守点検	蕪山高校
参考5	可燃物等収集運搬業務	株式会社マエダ美化	/	506,660	0	506,660	/	6.4.5 ～ 7.3.31	/	/	燃やせるゴミ、プラスチックゴミの収集運搬処分	蕪山高校
参考6	建築基準法第12条に基づく定期点検業務	有限会社コーセイ産業	/	2,378,640	0	2,378,640	/	6.8.1 ～ 6.11.29	/	/	建築基準法第12条に基づく点検	伊豆中央高校
参考7	警備業務(伊豆下田・伊豆松崎分校分)	セコム株式会社	/	3,484,800	0	3,484,800	/	1.10.1 ～ 6.9.30	/	/	学校施設の機械警備	稲取高校
参考8	警備業務(伊豆下田・伊豆松崎分校分)	セコム株式会社	/	11,550,000	0	11,550,000	/	6.10.1 ～ 11.9.30	/	/	学校施設の機械警備	稲取高校
	計	8件	/				/					

委託料に関する調

(令和7年度)  
(令和7年8月31日現在)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
	(事務関係)		円	円	円	円				円		
1	給食調理業務	株式会社マルヨ	59,160,797	58,778,500	0	58,778,500	一般	6.3.1 ～ 8.7.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31 7.8.29 小計	2,026,750 2,026,750 2,026,750 2,026,750 (24,321,000) 8,107,000	学校給食調理業務	6 長期
2	スクールバス輸送業務	伊豆箱根バス株式会社営業部	212,210,460	203,388,460	0	203,388,460	一般	6.4.1 ～ 9.3.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31 7.8.29 小計	5,649,600 5,649,600 5,649,600 5,649,600 (67,795,200) 22,598,400	スクールバスの運行	6 長期
3	伊豆下田分校スクールバス輸送業務	株式会社東海バス下田営業所	47,200,340	36,665,178	0	36,665,178	一般	6.4.1 ～ 9.3.31	7.5.15 7.6.30 7.7.31 7.8.29 小計	1,018,501 1,018,501 1,018,501 1,018,501 (12,221,154) 4,074,004	スクールバスの運行	6 長期
4	自動ドア保守管理業務	中日本オートドア株式会社	22,000	22,000	0	22,000	随契	7.4.3 ～ 8.3.31	小計	0	自動ドアの保守及び点検	随契 1号 (少額)
5	伊豆下田分校エレベーター保守管理業務	三菱電機ビルソリューションズ株式会社横浜支社西湘支店	369,600	369,600	0	369,600	随契	7.4.1 ～ 8.3.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31 7.8.29 小計	30,800 30,800 30,800 30,800 123,200	エレベーターの保守管理業務	随契 1号 (少額)
6	エレベーター保守管理業務	東芝エレベータ株式会社静岡支店	967,560	967,560	0	967,560	随契	7.4.1 ～ 8.3.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31 7.8.29 小計	80,630 80,630 80,630 80,630 322,520	エレベーターの保守管理業務	随契 1号 (少額)
7	防鼠防虫業務	株式会社三島美装	99,000	99,000	0	99,000	随契	7.4.1 ～ 8.3.31	小計	0	厨房のゴキブリ、鼠等の駆除防除	随契 1号 (少額)
8	厨房清掃業務	株式会社カンザイ	285,560	285,560	0	285,560	随契	7.7.2 ～ 8.3.31	7.8.29 小計	94,050 94,050	厨房の清掃	随契 1号 (少額)
9	グリストラップ清掃及び産業廃棄物収集運搬業務	伊豆総業株式会社	172,700	172,700	0	172,700	随契	7.7.7 ～ 8.3.31	7.8.29 小計	72,600 72,600	グリストラップの清掃及び産業廃棄物の収集運搬	随契 1号 (少額)
10	産業廃棄物(汚泥)処分業務	クリーンサービス株式会社	処分料(1kg当たり)@27.5	処分料(1kg当たり)@27.5	0	処分料(1kg当たり)@27.5	随契	7.7.7 ～ 8.3.31	小計	0	産業廃棄物の処分	随契 1号 (少額) 単価契約
	合計	10件							小計	35,391,774		

整理 番号	委 託 業務名	受 託 者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約締 結方法	契約 期間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の内容	摘 要
				当初額	変更増減額	計						
参考1	警備業務	セコム株 式会社		19,965,000	0	19,965,000		6.10.1 ～ 11.9.30			学校施設 の機械警 備	三島北 高校
参考2	消防用設 備等保守 点検業務	伊豆防災 機器株式 会社		8,032,024	0	8,032,024		7.4.1 ～ 8.3.31			消防用設 備の保守 点検	三島北 高校
参考3	自家用電 気工作物 保安業務	株式会社 静岡ケイ テクノ		1,359,600	0	1,359,600		7.4.1 ～ 8.3.31			校内電気 工作物の 保守点検	菫山高校
参考4	可燃物等 収集運搬 業務	株式会社 マエダ美 化		501,490	0	501,490		7.4.4 ～ 8.3.31			燃やせる ゴミ、プ ラスチック ゴミの収集 運搬	菫山高校
参考5	警備業務 (伊豆下 田・伊豆 松崎分 校)	セコム株 式会社		11,550,000	0	11,550,000		6.10.1 ～ 11.9.30			学校施設 の機械警 備	稲取高校
	計	5件										

□□□□

## 負担金支出調

(令和6年度)

整理 番号	負担金名	交付先	負担 根拠	事業内容	負担金額	支出 年月日
1	伊豆下田分校負担金	下田市教育委員会	協定書 による	光熱水費、給 食人件費等	1,641,575円	R 6. 7. 4
2	全国特別支援学校知的 障害教育校長研究大会 参加費	第47回全国特別支援学 校知的障害教育校長研 究大会四国(香川)	会則に よる	知的障害教育 振興並びに会 員の研修	3,000円	R 6. 7. 25
3	全国特別支援学校知的 障害教育校長会会費	全国特別支援学校知的 障害教育校長会	会則に よる	知的障害教育 振興並びに会 員の研修	15,000円	R 6. 7. 31
4	東海地区特別支援学校 知的障害教育校長会会費	東海地区特別支援学校 知的障害教育校長会	規約に よる	知的障害教育 振興並びに会 員の研修	5,000円	R 6. 7. 31
5	伊豆下田分校負担金	下田市教育委員会	協定書 による	光熱水費、給 食人件費等	1,709,235円	R 6. 11. 20
	計	5件			3,373,810円	

## 負担金支出調

(令和7年度)  
(令和7年8月31日現在)

整理 番号	負 担 金 名	交 付 先	負担 根拠	事 業 内 容	負担金額	支出 年月日
1	防火管理講習受講料	一般財団法人 日本防火・防災協会	規約に よる	甲種防火管理 新規講習	8,000円	R 7. 5. 28
2	伊豆下田分校負担金	下田市教育委員会	協定書 による	光熱水費、給 食人件費等	1,985,263円	R 7. 7. 11
3	全国特別支援学校知的 障害教育校長研究大会 参加費	第48回全国特別支援学 校知的障害教育校長研 究大会(埼玉)	会則に よる	知的障害教育 振興並びに会 員の研修	3,000円	R 7. 7. 7
4	東海地区学校図書館研 究大会参加費	第42回東海地区学校図 書館研究大会運営委員 会	会則に よる	学校図書館振 興並びに会員 の研修	3,000円	R 7. 7. 11
5	全国特別支援学校知的 障害教育校長会会費	全国特別支援学校知的 障害教育校長会	会則に よる	知的障害教育 振興並びに会 員の研修	15,000円	R 7. 7. 14
6	東海地区特別支援学校 知的障害教育校長会会費	東海地区特別支援学校 知的障害教育校長会	規約に よる	知的障害教育 振興並びに会 員の研修	5,000円	R 7. 8. 1
	計	6件			2,019,263円	

建築

工事調

(令和7年度)  
(令和7年8月31日現在)

整理番号	予算科目	工事名	工事箇所	当初設計金額	契約金額	
					当初額	変更増減額
1	教育管理費	伊豆の国特別支援学校伊豆下田分校エレベーター修繕工事	下田市5丁目地内	825,000	822,800	0
2	教育管理費	静岡県立伊豆の国特別支援学校校舍棟空調機集中リモコン更新新工事	伊豆の国市寺家地内	880,000	880,000	0

計	契約締結方法	受注者	着手完成年月日	支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘要
880,000	随意	株式会社ワールドエンジニアリング	7.8.21 ～ (7.11.30)	0	空調機集中リ モコン更新 1台	-	令和年月日 (7.7.28) 最終支払年月日 随契1号(少額)

公有財産調

(令和6年度)

(本校)

区分	令和6年3月31日 現在		増		減		令和7年3月31日 現在		摘要
	数量又は面積	台帳格 千円	数量又は面積	台帳格 千円	数量又は面積	台帳格 千円	数量又は面積	台帳格 千円	
行政財産		2,912,712		0		89,849		2,822,863	
土地	10,003.37 <sup>m<sup>2</sup></sup>	506,615		0			10,003.37 <sup>m<sup>2</sup></sup>	506,615	
立木竹	1,321 <sup>本</sup>	4,275		0			1,321 <sup>本</sup>	4,275	
建物	3,128.28 <sup>m<sup>2</sup></sup> 7,821.20	2,165,787		0		73,856	3,128.28 <sup>m<sup>2</sup></sup> 7,821.20	2,091,931	
工作物	166 <sup>個</sup>	236,035		0		15,993	166 <sup>個</sup>	220,042	
公有財産に準ずるもの		10		0		0		10	
電話加入権	1 <sup>件</sup>	10		0		0	1 <sup>件</sup>	10	

(伊豆下田分校)

区分	令和6年3月31日 現在		増		減		令和7年3月31日 現在		摘要
	数量又は面積	台帳格 千円	数量又は面積	台帳格 千円	数量又は面積	台帳格 千円	数量又は面積	台帳格 千円	
行政財産		19,492		0		1,592		17,900	
建物	12.82 <sup>m<sup>2</sup></sup> 38.46	8,339		0		455	12.82 <sup>m<sup>2</sup></sup> 38.46	7,884	
工作物	17 <sup>個</sup>	11,153		0		1,137	17 <sup>個</sup>	10,016	
公有財産に準ずるもの		80		0		0		80	
電話加入権	1 <sup>件</sup>	80		0		0	1 <sup>件</sup>	80	

(伊豆松崎分校)

区分	令和6年3月31日 現在		増		減		令和7年3月31日 現在		摘要
	数量又は面積	台帳格 千円	数量又は面積	台帳格 千円	数量又は面積	台帳格 千円	数量又は面積	台帳格 千円	
行政財産		7,387		0		1,213		6,174	
工作物	14 <sup>個</sup>	7,387		0		1,213	14 <sup>個</sup>	6,174	
公有財産に準ずるもの		72		0		0		72	
電話加入権	1 <sup>件</sup>	72		0		0	1 <sup>件</sup>	72	

「令和7年度中増減なし」

□□□□

借地借家等調

(令和7年8月31日現在)

(本校)

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量又は面積	借料		契約期間	所有者又は契約者氏名	用途
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	用悪水路	伊豆の国市寺家字稗田232番地の4	学校敷地	学校敷地	m <sup>2</sup> 27.36	円	円	R. 1. 11. 5 ~ R11. 3. 31	伊豆の国市長	L型擁壁基礎
	計							0			

(令和7年8月31日現在)

(伊豆下田分校)

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量又は面積	借料		契約期間	所有者又は契約者氏名	用途
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	学校用地	下田市5丁目3-1	学校敷地	学校敷地	m <sup>2</sup> 22.78	円	円	R. 5. 4. 1 ~ R8. 3. 31	下田市教育委員会教育長	建物工作物敷地
	計							0			
2	建物	事務所建	下田市5丁目3-1	鉄筋コンクリート造		535.65			R. 5. 4. 1 ~ R8. 3. 31	下田市教育委員会教育長	特別支援学校校舎
	計							0			

(令和7年8月31日現在)

(伊豆松崎分校)

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量又は面積	借料		契約期間	所有者又は契約者氏名	用途
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	学校敷地	賀茂郡松崎町櫻田188番地	学校敷地	学校敷地	m <sup>2</sup> 436.97	円	円	R. 6. 4. 1 ~ R9. 3. 31	松崎高等学校	建物工作物敷地
2	建物	事務所建	賀茂郡松崎町櫻田188番地	鉄筋コンクリート造		518.11			R. 6. 4. 1 ~ R9. 3. 31	松崎高等学校	特別支援学校校舎
	計							0			

□□□□

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和7年度)  
(令和7年8月31日現在)

区分	事業名又は契約名	内 容	契約額	(契約額の年度別内訳)									
				3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	
長期継続契約	カラー印刷機 賃貸借	カラー印刷機 1台の使用料 (契約日) R 3. 4. 1	3,300,000	660,000	660,000	660,000	660,000	660,000					
	電子複写機 賃貸借及び使用	電子複写機 1台の使用料 (契約日) R 3. 4. 1	386,958	77,391	77,391	77,392	77,392	77,392					
	電子複写機 賃貸借	分校電子複写機 2台の使用料 (契約日) R 3. 4. 1	727,349	195,550	180,763	186,018	165,018						
	電子複写機 賃貸借	分校電子複写機 2台の使用料 (契約日) R 7. 4. 1	2,151,600					430,320	430,320	430,320	430,320	430,320	430,320
	給食業務委託	給食の調理及び 配膳業務 (契約日) R 6. 3. 1	58,778,500			2,029,500	24,321,000	24,321,000	8,107,000				
	スクールバス 輸送業務委託	通学の送迎及び 校外活動の送迎 (契約日) R 6. 4. 1	円 203,388,460				67,795,200	67,795,200	67,798,060				
	伊豆下田分校 スクールバス 輸送業務委託	通学の送迎及び 校外活動の送迎 (契約日) R 6. 4. 1	36,665,178				12,221,154	12,222,012	12,222,012				

□□□□

行政財産貸付・使用許可調

(令和7年8月31日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地 目		数量 又は 面積	貸付料又は使用料		貸付又は 使用許可 期 間	貸付又は使 用許可を受 けた者の氏 名	貸付・ 使用許 可目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	学校 敷地	伊豆の 国市寺 家235	学校 敷地	学校 敷地	電柱 1本	円 1,500	円 1,500	4.4.1 ～ 9.3.31	東京電力パ ワーグリッ ド(株)伊豆 支社長	電柱設置
合計								1,500			

## 主要備品調

(令和7年8月31日現在)

整理 番号	区 分		品名・規格	利用状況	購入 年月	購入金額(円)	適用
	大・中	小					
1	01-13	その他の厨房器具	真空冷却機 CMJ-40QE	毎日(年間190日) 給食調理	R 3. 2	4,491,300	20-005325
2	01-13	調理器具	コンビオープン ACO-202GS	毎日(年間190日) 給食調理	R 3. 2	2,838,000	20-005322
3	01-13	調理器具	ガス回転釜(タフコート) GHSX-30AS-SS	毎日(年間190日) 給食調理	R 3. 2	2,212,650	20-005320
4	01-13	調理器具	ガス回転釜(タフコート) GHSX-30AS-SS	毎日(年間190日) 給食調理	R 3. 2	2,212,650	20-005321
5	01-13	食品食器洗浄機	ラックコンベヤタイプ 自動食器洗浄機 SDR310GSH	毎日(年間190日) 給食食器洗浄	R 3. 2	1,851,300	20-005336
6	03-03	プロジェクター	プロジェクター	毎日(年間200日) 授業	R 3. 3	1,764,224	20-011909
7	01-04	移動書庫	移動書庫	毎日(年間365日) 書類保管	R 3. 3	1,716,000	20-006511
8	06-99	その他の諸機器	その他の諸機器 単相 200V 13kw	年間20回(20日) 伊豆松崎分校 作業学習	H24. 3	1,680,000	11-020920
9	02-01	パーソナルコン ピュータ(一式)	県立学校ICT環境整備機器一式 ノート6台(＠115,811ソフト含む)等	毎日(年間200日) 伊豆松崎分校 授業	R 2. 1	1,460,921	19-003870
10	02-01	その他の情報処理機 器	サーバ	毎日(年間365日) 伊豆下田分校 ネットワーク管理	H28. 4	1,458,000	16-000027
11	02-01	パーソナルコン ピュータ(一式)	県立学校ICT環境整備機器一式 ノート6台(＠115,811ソフト含む)等	月4回(48日) 情報の授業	R 2. 1	1,261,920	19-003871
12	01-04	戸棚	収納ユニット ウチダ収納ユニット	毎日(年間365日) 調理室食器等保管	H15. 10	1,027,000	03-003683
13	01-13	調理器具	温蔵庫	毎日(年間190日) 給食調理	R 6. 2	990,000	23-002945
14	01-13	その他の厨房器具	電気式食器消毒保管機 EW-1504N特	毎日(年間190日) 給食食器消毒	R 3. 2	870,100	20-005337
15	01-13	その他の厨房器具	電気式食器消毒保管機 EW-1504N特	毎日(年間190日) 給食食器消毒	R 3. 2	870,100	20-005333
16	01-99	その他の庁用器具	校旗	年間5日 学校行事	R 3. 2	847,000	20-004661
17	07-01	除草用機器	除草用機器 ミーモ	毎日(年間365日) グラウンド管理	R 6. 3	751,080	23-003277
18	02-01	パーソナルコン ピュータ(一式)	県立学校ICT環境整備機器一式	毎日(年間200日) 授業	R 3. 3	747,560	20-011850
19	01-13	その他の厨房器具	器具消毒保管機 EMK-1004N特	毎日(年間190日) 給食器具消毒	R 3. 2	735,900	20-005327
20	03-03	プロジェクター	プロジェクター	毎日(年間200日) 伊豆松崎分校 授業	R 3. 3	712,191	20-011892

## 職 員 調 ( 本 校 )

(令和7年8月31日現在)

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数	摘 要
1	校長	松本 仁美	総括	□□□□	□年□月	□□□□
2	副校長	勝又 将也	総括補助	□□□□	□年□月	□□□□
3	教頭	齋藤 夕紀	総括補助	□□□□	□年□月	□□□□
4	事務長	相原 直人	事務総括	□□□□	□年□月	□□□□
5	教諭	伊海 早苗	小4	□□□□	□年□月	□□□□
6	教諭	松本 美智枝	高3	□□□□	□年□月	□□□□
7	教諭	原田 美栄	中3	□□□□	□年□月	□□□□
8	教諭	長崎 良夫	人財サポート	□□□□	□年□月	□□□□
9	教諭	前田 博子	小学部	□□□□	□年□月	□□□□
10	教諭	長田 智尋	小学校	□□□□	□年□月	□□□□
11	教諭	末益 美佐	小1	□□□□	□年□月	□□□□
12	教諭	竹内 知子	中3	□□□□	□年□月	□□□□
13	教諭	三井 朋美	中学部	□□□□	□年□月	□□□□
14	教諭	清水 笛子	小2	□□□□	□年□月	□□□□
15	教諭	藤井 あや子	高等部	□□□□	□年□月	□□□□
16	教諭	濱西 知子	高1	□□□□	□年□月	□□□□
17	教諭	渡邊 條次	高2	□□□□	□年□月	□□□□
18	教諭	浅田 勇	小1	□□□□	□年□月	□□□□
19	教諭	吉川 静恵	高3	□□□□	□年□月	□□□□
20	教諭	松野 幸子	小6	□□□□	□年□月	□□□□
21	教諭	山登 実芳	高3	□□□□	□年□月	□□□□
22	教諭	神保 くるみ	小学部	□□□□	□年□月	□□□□
23	教諭	西山 ちづる	高2	□□□□	□年□月	□□□□
24	教諭	森田 靖彦	高等部	□□□□	□年□月	□□□□
25	教諭	廣 和子	小学部	□□□□	□年□月	□□□□
26	教諭	小柳 梓	小2	□□□□	□年□月	□□□□
27	教諭	水野 直代	小5	□□□□	□年□月	□□□□
28	教諭	蔵田 篤	小4	□□□□	□年□月	□□□□
29	教諭	高塚 明子	小1	□□□□	□年□月	□□□□
30	教諭	中村 真	小6	□□□□	□年□月	□□□□
31	教諭	浦 清栄	中学部	□□□□	□年□月	□□□□
32	教諭	神田 光紀	中学部	□□□□	□年□月	□□□□
33	教諭	加藤 孝雄	高1	□□□□	□年□月	□□□□
34	教諭	神戸 あい	小学部	□□□□	□年□月	□□□□
35	教諭	林 輝彦	小4	□□□□	□年□月	□□□□
36	教諭	青木 恭美	小3	□□□□	□年□月	□□□□
37	教諭	蛭川 智広	中3	□□□□	□年□月	□□□□
38	教諭	加藤 丈晴	小6	□□□□	□年□月	□□□□
39	教諭	矢谷 一雄	高1	□□□□	□年□月	□□□□
40	教諭	杉澤 ゆみ	小5	□□□□	□年□月	□□□□
41	教諭	加藤 雄二	高1	□□□□	□年□月	□□□□

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
42	教諭	鈴木 美津保	小3	□□□□	□年□月	□□□□
43	教諭	山本 修平	高3	□□□□	□年□月	□□□□
44	教諭	遠藤 麻衣子	中学部	□□□□	□年□月	□□□□
45	教諭	長島 涼子	小4	□□□□	□年□月	□□□□
46	教諭	古川 永子	小5	□□□□	□年□月	□□□□
47	教諭	後藤 麻衣	中1	□□□□	□年□月	□□□□
48	教諭	荻原 隆志	中3	□□□□	□年□月	□□□□
49	教諭	齋藤 未央	高1	□□□□	□年□月	□□□□
50	教諭	神戸 優輔	中1	□□□□	□年□月	□□□□
51	教諭	丸山 未来	小3	□□□□	□年□月	□□□□
52	教諭	藤田 健太郎	高3	□□□□	□年□月	□□□□
53	教諭	天野 萌	小6	□□□□	□年□月	□□□□
54	教諭	鈴木 健太	高2	□□□□	□年□月	□□□□
55	教諭	森 綾子	高2	□□□□	□年□月	□□□□
56	教諭	山中 敏裕	高3	□□□□	□年□月	□□□□
57	教諭	永田 瞳美	中2	□□□□	□年□月	□□□□
58	教諭	山口 歩惟	中1	□□□□	□年□月	□□□□
59	教諭	伊賀上 綾太	高2	□□□□	□年□月	□□□□
60	教諭	佐々木 絵梨子	高1	□□□□	□年□月	□□□□
61	教諭	藤田 瑞穂	小2	□□□□	□年□月	□□□□
62	教諭	大木 慶典	小2	□□□□	□年□月	□□□□
63	教諭	勝亦 弘樹	高等部	□□□□	□年□月	□□□□
64	教諭	勝田 翔吾	中1	□□□□	□年□月	□□□□
65	教諭	清 圭介	高1	□□□□	□年□月	□□□□
66	教諭	河合 里美	小3	□□□□	□年□月	□□□□
67	教諭	廣瀬 貴達	小5	□□□□	□年□月	□□□□
68	教諭	城内 咲由利	高1	□□□□	□年□月	□□□□
69	教諭	山口 美樹	小4	□□□□	□年□月	□□□□
70	教諭	岩瀬 祐作	中3	□□□□	□年□月	□□□□
71	教諭	小林 泰代	高1	□□□□	□年□月	□□□□
72	教諭	渡辺 優	中2	□□□□	□年□月	□□□□
73	教諭	丸濱 有加	中1	□□□□	□年□月	□□□□
74	教諭	小林 彩奈	小1	□□□□	□年□月	□□□□
75	教諭	荒川 朋之	中3	□□□□	□年□月	□□□□
76	教諭	土屋 充	小2	□□□□	□年□月	□□□□
77	教諭	養毛 泰都	小5	□□□□	□年□月	□□□□
78	教諭	安井 義成	小6	□□□□	□年□月	□□□□
79	教諭	小林 朱乃	中2	□□□□	□年□月	□□□□
80	教諭	早藤 光輝	高2	□□□□	□年□月	□□□□
81	教諭	長田 美雲	高1	□□□□	□年□月	□□□□
82	教諭	岩崎 圭佑	小3	□□□□	□年□月	□□□□

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数	摘 要
83	教諭	成生 洋樹	小1	□□□□	□年□月	□□□□
84	教諭	大石 咲	小6	□□□□	□年□月	□□□□
85	教諭	渡邊 鈴菜	中1	□□□□	□年□月	□□□□
86	教諭	駒野 はづき	小1	□□□□	□年□月	□□□□
87	教諭	福井 桃子	中3	□□□□	□年□月	□□□□
88	教諭	佐藤 雅洋	小5	□□□□	□年□月	□□□□
89	教諭	篠原 英恵	小4	□□□□	□年□月	□□□□
90	教諭	伊藤 百合絵	高2	□□□□	□年□月	□□□□
91	教諭	高木 柚香	中3	□□□□	□年□月	□□□□
92	教諭	後藤 花菜	小5	□□□□	□年□月	□□□□
93	教諭	山本 絢稀	中1	□□□□	□年□月	□□□□
94	教諭	杉山 美乃莉	小1	□□□□	□年□月	□□□□
95	教諭	伊藤 明日香	小4	□□□□	□年□月	□□□□
96	教諭	宇留嶋 愛美	小2	□□□□	□年□月	□□□□
97	教諭	中瀬 咲良	小3	□□□□	□年□月	□□□□
98	養護教諭	見須 愛美	養護	□□□□	□年□月	□□□□
99	養護教諭	川崎 智尋	養護	□□□□	□年□月	□□□□
100	栄養教諭	石井 紀子	給食	□□□□	□年□月	□□□□
101	主査	伊藤 淳子	会計	□□□□	□年□月	□□□□
102	主任	平山 竜賀	会計	□□□□	□年□月	□□□□
103	主任	石川 咲紀	会計	□□□□	□年□月	□□□□
平均年数					2年6月	

## 付記

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	教諭(任)	土屋 美奈		□□□□	□年□月	□□□□
2	教諭(任)	大河 珠美		□□□□	□年□月	□□□□
3	教諭(任)	青木 裕美子		□□□□	□年□月	□□□□
4	教諭(任)	佐々木 千恵		□□□□	□年□月	□□□□
5	教諭(任)	中村 かおり		□□□□	□年□月	□□□□
6	教諭(任)	江島 綾子		□□□□	□年□月	□□□□
7	教諭(任)	三田 仁美		□□□□	□年□月	□□□□
8	教諭(任)	萩原 知子		□□□□	□年□月	□□□□
9	教諭(任)	鎌山 千代子		□□□□	□年□月	□□□□
10	教諭(臨)	前田 和枝		□□□□	□年□月	□□□□
11	教諭(臨)	小出 麻矢	小5	□□□□	□年□月	□□□□
12	教諭(臨)	妹尾 幸俊		□□□□	□年□月	□□□□
13	教諭(臨)	藤川 翼		□□□□	□年□月	□□□□
14	教諭(臨)	洪田 浅美		□□□□	□年□月	□□□□
15	教諭(臨)	仁藤 佳代		□□□□	□年□月	□□□□
16	主事(臨)	渡辺 文恵	会計	□□□□	□年□月	□□□□
17	医療的ケア指導員	田場 由紀	医療的ケア	□□□□	□年□月	□□□□
18	実習支援指導員	大川 文夫	実習支援	□□□□	□年□月	□□□□
19	非常勤労働職員	瀬戸 和代	用務	□□□□	□年□月	□□□□
20	非常勤労働職員	三保 信一郎	用務	□□□□	□年□月	□□□□
21	非常勤労働職員	竹ノ下 直子	バス介助	□□□□	□年□月	□□□□
22	非常勤労働職員	中村 末子	バス介助	□□□□	□年□月	□□□□
23	非常勤労働職員	藍澤 カオル	バス介助	□□□□	□年□月	□□□□
24	非常勤労働職員	成田 真弓	バス介助	□□□□	□年□月	□□□□
25	非常勤労働職員	西脇 博	バス介助	□□□□	□年□月	□□□□
26	非常勤嘱託職員	村松 遼	実習支援	□□□□	□年□月	□□□□
27	非常勤嘱託職員	落合 美咲	実習支援	□□□□	□年□月	□□□□
28	非常勤嘱託職員	影島 悠莉	実習支援	□□□□	□年□月	□□□□
29	非常勤嘱託職員	中矢 美奈子	事務	□□□□	□年□月	□□□□
30	就労促進専門員	赤尾 ひとみ	就労促進	□□□□	□年□月	□□□□
31	非常勤講師	河合 孝彦	講師	□□□□	□年□月	□□□□
32	健康管理医	渡邊 誠司	健康管理医	□□□□	□年□月	□□□□
33	学校医	渡邊 誠司	内科	□□□□	□年□月	□□□□
34	学校医	宇野 明彦	眼科	□□□□	□年□月	□□□□
35	学校医	佐藤 隆夫	耳鼻科	□□□□	□年□月	□□□□
36	学校医	杉本 秀樹	歯科	□□□□	□年□月	□□□□
37	薬剤師	秋山 和久	薬剤師	□□□□	□年□月	□□□□

## 職 員 調 (伊豆下田分校)

(令和7年8月31日現在)

整理 番号	職 名	氏 名	事 務 分 担	住 所	勤 務 年 数	摘 要
1	副校長	廣瀬 かよ子	総括補助	□□□□	□年□月	□□□□
2	教諭	長崎 智子	小学部	□□□□	□年□月	□□□□
3	教諭	鈴木 雅枝	小学部	□□□□	□年□月	□□□□
4	教諭	千葉 俊和	中学部	□□□□	□年□月	□□□□
5	教諭	小川 いつ子	中3	□□□□	□年□月	□□□□
6	教諭	滝井 隆	中学部	□□□□	□年□月	□□□□
7	教諭	山田 弥江	中学部	□□□□	□年□月	□□□□
8	教諭	高橋 宏宜	小学部	□□□□	□年□月	□□□□
9	教諭	増田 隼人	小4	□□□□	□年□月	□□□□
10	教諭	岩城 美絵	小学部	□□□□	□年□月	□□□□
11	教諭	近藤 一葉	小学部	□□□□	□年□月	□□□□
12	教諭	木村 由貴		□□□□	□年□月	□□□□
13	教諭	八木 竜馬	中1	□□□□	□年□月	□□□□
14	教諭	牧田 響太	小6	□□□□	□年□月	□□□□
15	教諭	大胡田 聖成	小3	□□□□	□年□月	□□□□
16	養護教諭	星野 とも子	養護	□□□□	□年□月	□□□□
17	主査	太田 昌之	事務	□□□□	□年□月	□□□□
				平均年数	2年2月	

## 臨時的任用職員・会計年度任用職員・学校医

整理 番号	職 名	氏 名	事 務 分 担	住 所	勤 務 年 数	摘 要
1	教諭(任)	臼井 りえ	小6	□□□□	□年□月	□□□□
2	教諭(臨)	小磯 磯美	中2	□□□□	□年□月	□□□□
3	教諭(臨)	奥村 渚	中3	□□□□	□年□月	□□□□
4	会計年度任用職員	川崎 由佳	医療的ケア	□□□□	□年□月	□□□□
5	会計年度任用職員	奥村 千江美	用務	□□□□	□年□月	□□□□
6	会計年度任用職員	滝本 園子	スクールバス添乗員	□□□□	□年□月	□□□□
7	会計年度任用職員	大原 麻理子	スクールバス添乗員	□□□□	□年□月	□□□□
8	学校医	河井 文健	内科	□□□□	□年□月	□□□□
9	学校医	宇野 明彦	眼科	□□□□	□年□月	□□□□
10	学校医	大石 延正	耳鼻咽喉科	□□□□	□年□月	□□□□
11	学校医	土屋 正彦	歯科	□□□□	□年□月	□□□□
12	学校薬剤師	水越 康有	衛生	□□□□	□年□月	□□□□
13	健康管理医	河井 榮		□□□□	□年□月	□□□□

## 職 員 調 (伊豆松崎分校)

(令和7年8月31日現在)

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	教頭	中 康平	総括補助	□□□□	□年□月	□□□□
2	教諭	村山 理恵	高等部	□□□□	□年□月	□□□□
3	教諭	高木 晶	高2	□□□□	□年□月	□□□□
4	教諭	栗田 智恵	高2	□□□□	□年□月	□□□□
5	教諭	滝井 弓映	高等部	□□□□	□年□月	□□□□
6	教諭	南 愛子	高1	□□□□	□年□月	□□□□
7	教諭	齋藤 麻実	高等部	□□□□	□年□月	□□□□
8	教諭	内藤 詞子	高3	□□□□	□年□月	□□□□
9	教諭	高木 朋也	高2	□□□□	□年□月	□□□□
10	教諭	村田 クレイグ	高1	□□□□	□年□月	□□□□
11	教諭	高羽 修斗	高3	□□□□	□年□月	□□□□
12	主事	松田 紗季	事務	□□□□	□年□月	□□□□
				平均年数	1年1月	

## 付記

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	養護教諭(任)	鈴木 三恵	養護	□□□□	□年□月	□□□□
2	教諭(臨)	金刺 雅子	高等部	□□□□	□年□月	□□□□
3	非常勤労働職員	山本 浩美	用務	□□□□	□年□月	□□□□
4	健康管理医	池田 正見	健康管理医	□□□□	□年□月	□□□□
5	学校医	中江 順	内科	□□□□	□年□月	□□□□
6	学校医	宇野 明彦	眼科	□□□□	□年□月	□□□□
7	学校医	大石 延正	耳鼻咽喉科	□□□□	□年□月	□□□□
8	学校医	中江 希望	歯科	□□□□	□年□月	□□□□
9	学校薬剤師	高橋 浩	衛生	□□□□	□年□月	□□□□

□□□□

## 職員の年齢調

(令和7年8月31日現在)

年 齢	人 員				摘 要
	本 校	伊豆下田 分校	伊豆松崎 分校	合 計	
20 歳未満	0 人	0 人	0 人	0 人	
20 歳以上 30 歳未満	12 人	2 人	4 人	18 人	
30 歳以上 40 歳未満	38 人	4 人	1 人	43 人	
40 歳以上 50 歳未満	23 人	4 人	5 人	32 人	
50 歳以上 56 歳未満	12 人	4 人	2 人	18 人	
56 歳以上 61 歳未満	15 人	2 人	0 人	17 人	
61 歳以上	4 人	1 人	0 人	5 人	再任用
計	104 人	17 人	12 人	133 人	平均年齢 42.6歳

□□□□

## 健康管理

【本校】

### 1 前年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 104 人
	職員数 104 人
受 診 率	100%
県平均受診率	100%

(1) 未受診の理由

(注) 1 前年度末日現在在籍している職員について記載する。

2 受診率算定に当たっては、休職・特休中、育休・産休・妊娠中、治療中及び海外派遣中等の職員は、算定の対象から除く。

### 2 本年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人 数(人)
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	
B 2		要経過観察	
C 1	勤務をほぼ平常に行ってよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	
C 2		要経過観察	
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療	4 (4)
D 2		要経過観察	12 (12)
D 3		医 療 不 要	88 (88)
区 分 者 計			104 (104)
未区分者数			0
合 計			104

(1) 管理区分A～C 2 該当者に対する措置状況

(2) 未区分の理由

ア □□□□ 人  
 イ □□□□ 人  
 ウ □□□□ 人  
 エ □□□□ 人  
□□□□ 人  
□□□□ 人

健康管理

【伊豆下田分校】

1 前年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 19人
	職員数 19人
受 診 率	100%
県平均受診率	100%

(1) 未受診の理由

(注) 1 前年度末日現在在籍している職員について記載する。

2 受診率算定に当たっては、休職・特休中、育休・産休・妊娠中、治療中及び海外派遣中等の職員は、算定の対象から除く。

2 本年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人 数(人)
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	
B 2		要経過観察	
C 1	勤務をほぼ平常に行ってよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	
C 2		要経過観察	
D 1	平常の勤務でよい	要 治 療	5 (5)
D 2		要経過観察	7 (7)
D 3		医 療 不 要	6 (6)
区 分 者 計			18 (18)
未区分者数			1 (1)
合 計			19

(1) 管理区分A～C 2 該当者に対する措置状況

□□□□ □人  
□□□□ □人

(2) 未区分の理由

ア □□□□ □人  
イ □□□□ □人  
ウ □□□□ □人  
エ □□□□  
□□□□ □人  
□□□□ □人

### 健康管理

【伊豆松崎分校】

1 前年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 12人
	職員数 12人
受 診 率	100%
県平均受診率	100%

(1) 未受診の理由

(注) 1 前年度末日現在在籍している職員について記載する。

2 受診率算定に当たっては、休職・特休中、育休・産休・妊娠中、治療中及び海外派遣中等の職員は、算定の対象から除く。

2 本年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分		人 数(人)
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。	0
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療 0
B 2		要経過観察 0
C 1	勤務をほぼ平常に行っており症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療 0
C 2		要経過観察 0
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療 3 (3)
D 2		要経過観察 2 (2)
D 3		医 療 不 要 6 (6)
区 分 者 計		11 (11)
未区分者数		2 (2)
合 計		13

(1) 管理区分A～C 2 該当者に対する措置状況  
□□□□ □人  
□□□□ □人

(2) 未区分の理由

ア □□□□ □人  
 イ □□□□ □人  
 ウ □□□□ □人  
 エ □□□□ □人  
□□□□ □人  
□□□□ □人